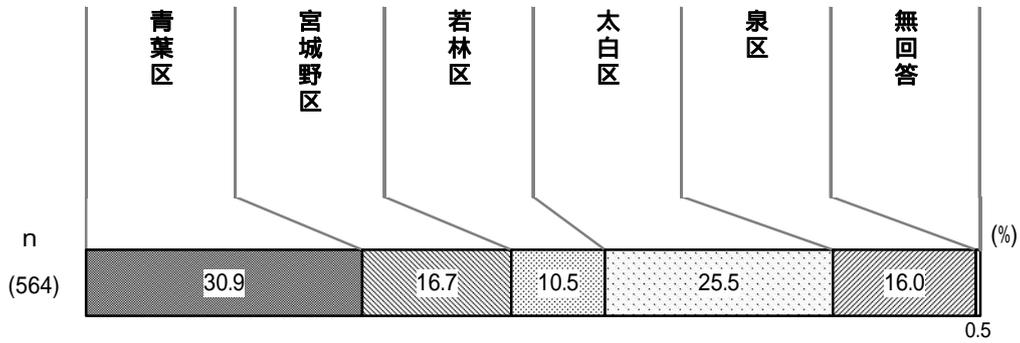


アンケート調査
(精神障害者本人(通院))

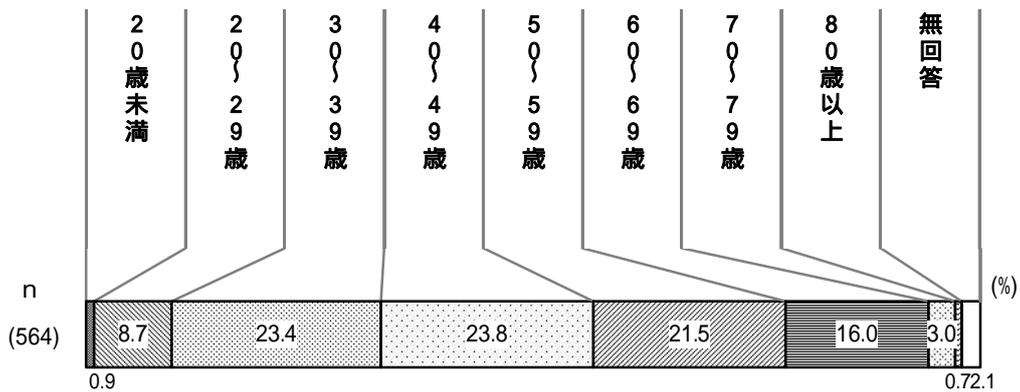
1 基本的な属性について

問1 あなたのお住まいの区はどこですか。(S A)



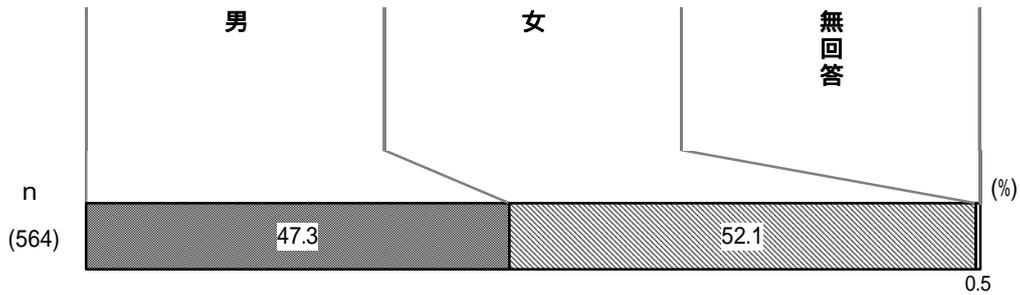
居住区については「青葉区」(30.9%)が最も多く、以下「太白区」(25.5%)、「宮城野区」(16.7%)、「泉区」(16.0%)、「若林区」(10.5%)となっている。

問2 あなたの年齢は何歳ですか。(数値)



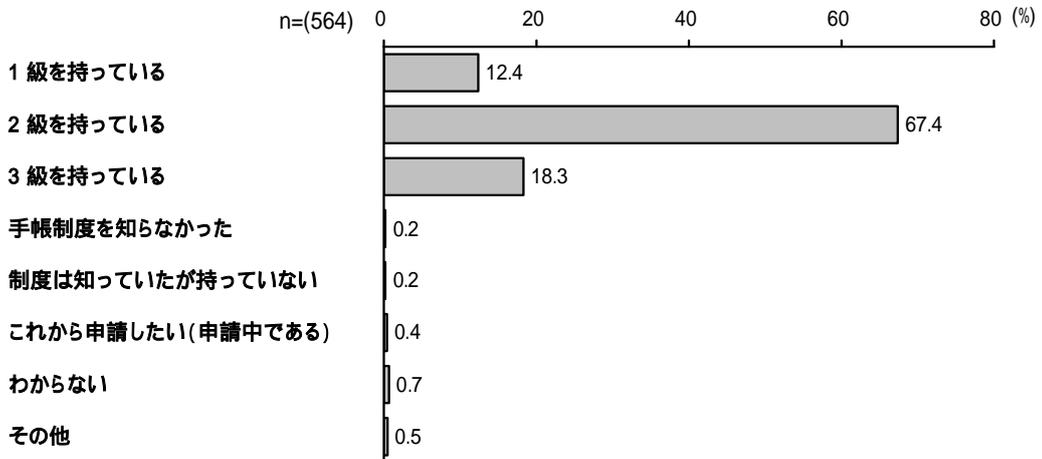
年齢については、「40～49歳」(23.8%)、「30～39歳」(23.4%)がともに多く、以下「50～59歳」(21.5%)となっている。

問3 あなたの性別は男、女のどちらですか。(SA)



性別については、「女」が52.1%、「男」が47.3%となっている。

問4 あなたは精神障害者保健福祉手帳を持っていますか。(SA)



精神障害者保健福祉手帳の有無については、「2級を持っている」(67.4%)が最も多く、以下「3級を持っている」(18.3%)、「1級を持っている」(12.4%)となっている。これらを合わせると《精神障害者保健福祉手帳所持者》は98.1%を占めている。

問5 4において「5 制度は知っていたが持っていない」を選択した方におたずねします。

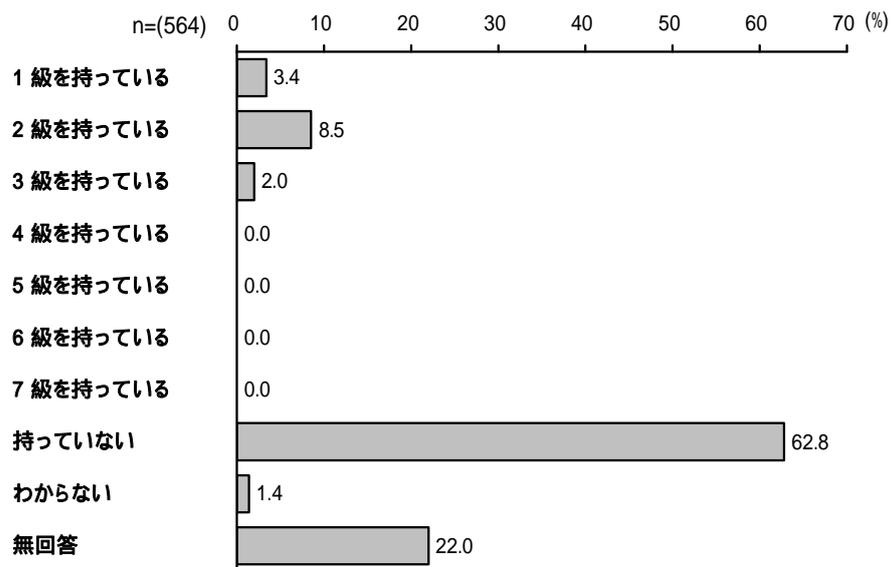
手帳を持っていない理由は何ですか。(MA)

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	手帳の等級に該当しない	持つメリットがない	を自分が認めたくないということ	が精神障害者に対する偏見	その他
1	1	0	0	0	0
100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由については、「手帳の等級に該当しない」が1件となっている。

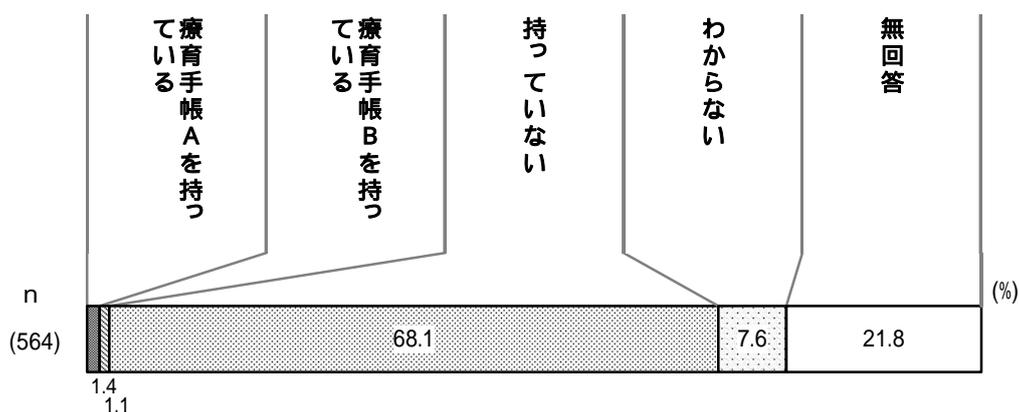
問6 あなたは身体障害者手帳を持っていますか。(SA)



身体障害者手帳の有無については、持っている人では「2級を持っている」(8.5%)が最も多く、以下「1級を持っている」(3.4%)、「3級を持っている」(2.0%)となっている。これらを合わせると《身体障害者手帳所持者》は13.9%となっている。

一方、「持っていない」は62.8%となっている。

問7 あなたは療育手帳を持っていますか。(S A)

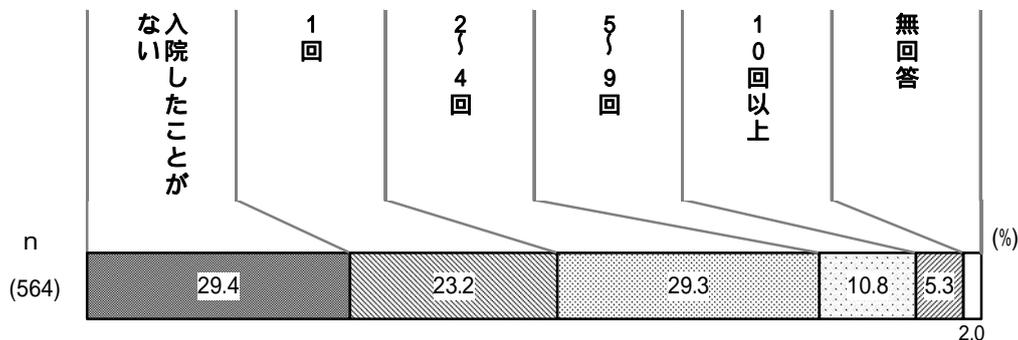


療育手帳の有無については、持っている人は「療育手帳 A を持っている」(1.4%)、「療育手帳 B を持っている」(1.1%)となっている。これらを合わせると《療育手帳所持者》は2.5%となっている。

一方、「持っていない」は68.1%となっている。

問8 精神科の入院経験についておたずねします。

(1) あなたはこれまで精神科に何回入院したことがありますか。(S A)



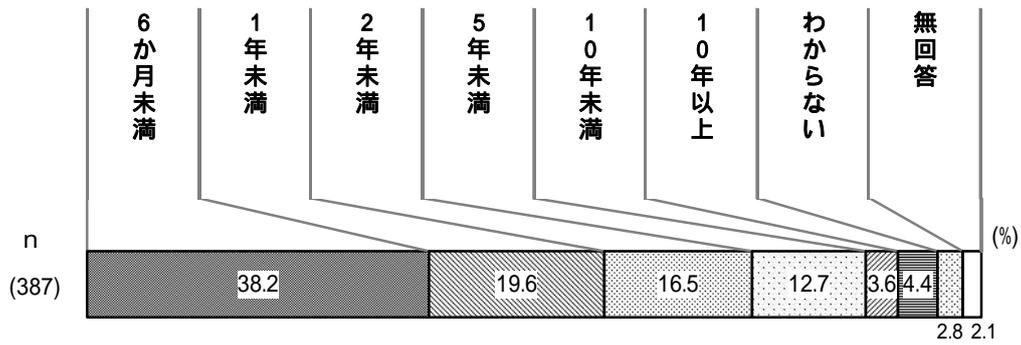
精神科入院の有無については、「2~4回」(29.3%)が最も多く、以下「1回」(23.2%)、「5~9回」(10.8%)となっている。これらを合わせると、入院したことのある人は68.6%となっている。一方、「入院したことがない」は29.4%となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	入院したことがない	1回	2~4回	5~9回	10回以上	無回答
全体	564	166	131	165	61	30	11
	100.0	29.4	23.2	29.3	10.8	5.3	2.0
20歳未満	5	4	1	0	0	0	0
	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20~29歳	49	22	9	14	2	1	1
	100.0	44.9	18.4	28.6	4.1	2.0	2.0
30~39歳	132	42	42	30	12	4	2
	100.0	31.8	31.8	22.7	9.1	3.0	1.5
40~49歳	134	48	27	35	16	6	2
	100.0	35.8	20.1	26.1	11.9	4.5	1.5
50~59歳	121	20	33	41	17	9	1
	100.0	16.5	27.3	33.9	14.0	7.4	0.8
60~69歳	90	19	11	40	10	8	2
	100.0	21.1	12.2	44.4	11.1	8.9	2.2
70~79歳	17	6	5	2	4	0	0
	100.0	35.3	29.4	11.8	23.5	0.0	0.0
80歳以上	4	1	0	2	0	1	0
	100.0	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0

年齢別にみると、入院したことのある人は20歳以上でいずれも50%以上となっている。

(2) 入院の期間は通算するとどのくらいの期間になりますか。(S A)



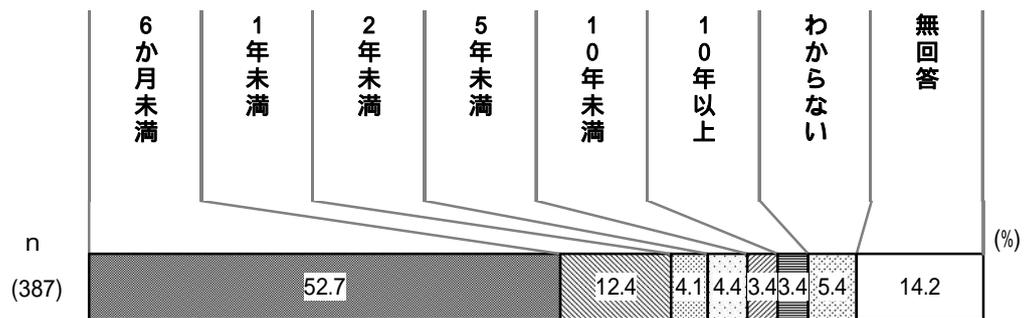
通算の精神科入院期間については、「6ヶ月未満 (38.2%)」が最も多く、以下「1年未満 (19.6%)」、「2年未満」(16.5%)、「5年未満」(12.7%)となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	6か月未満	1年未満	2年未満	5年未満	10年未満	10年以上	わからない	無回答
上段：件数 下段：%									
全体	387 100.0	148 38.2	76 19.6	64 16.5	49 12.7	14 3.6	17 4.4	11 2.8	8 2.1
20歳未満	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	26 100.0	12 46.2	10 38.5	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 7.7	0 0.0
30～39歳	88 100.0	40 45.5	17 19.3	17 19.3	8 9.1	1 1.1	2 2.3	1 1.1	2 2.3
40～49歳	84 100.0	38 45.2	11 13.1	13 15.5	12 14.3	3 3.6	4 4.8	2 2.4	1 1.2
50～59歳	100 100.0	35 35.0	21 21.0	11 11.0	13 13.0	5 5.0	10 10.0	1 1.0	4 4.0
60～69歳	69 100.0	17 24.6	15 21.7	15 21.7	12 17.4	4 5.8	1 1.4	4 5.8	1 1.4
70～79歳	11 100.0	2 18.2	2 18.2	5 45.5	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
80歳以上	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0

年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがって「6ヶ月未満」との回答が多くなっている。

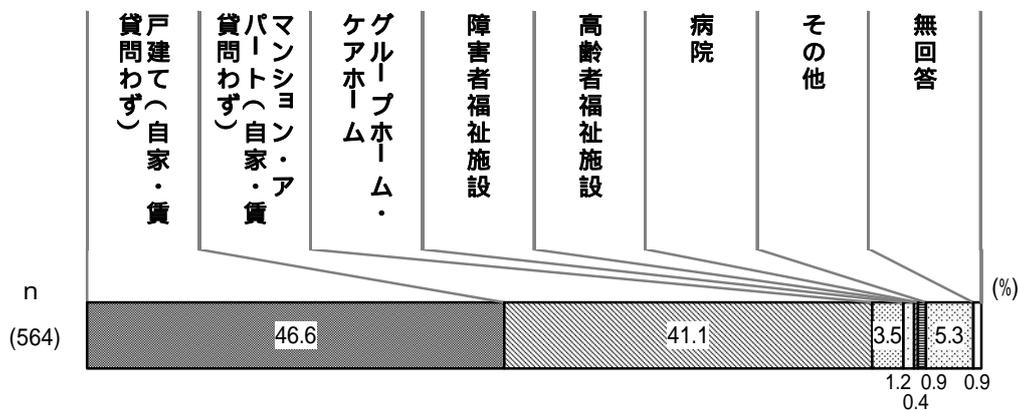
(3) 一番最近での入院期間はどのくらいでしたか。(S A)



最近の精神科入院期間については、「6ヶ月未満」(52.7%)が最も多く、以下「1年未満」(12.4%)となっている。

2 住環境について

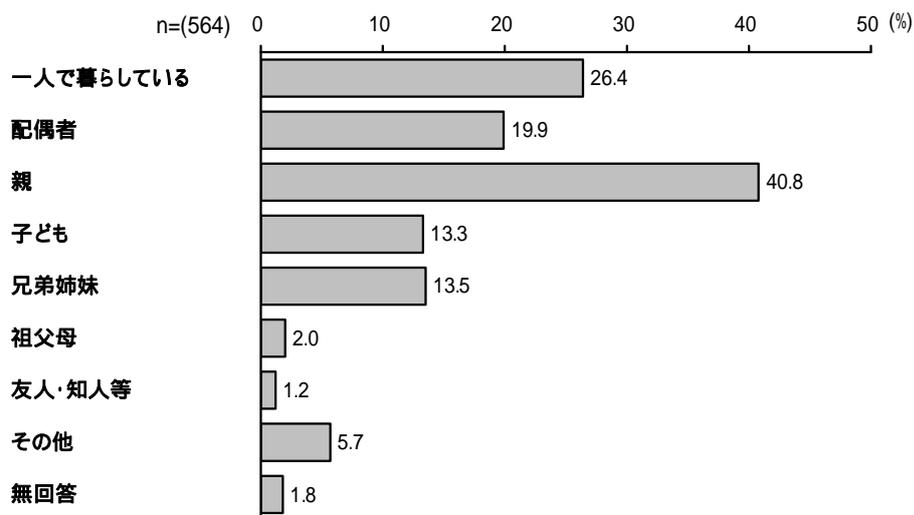
問9 現在、あなたのお住まいは次のうちどれですか。(S A)



現在の住まいについては、「戸建て(自家・賃貸問わず)」(46.6%)が最も多く、以下「マンション・アパート(自家・賃貸問わず)」(41.1%)となっている。

問10 あなたと一緒に住んでいる人は誰ですか。(MA)

問11 あなたと一緒に住んでいる人は何人ですか。(数値)



一緒に住んでいる人については、「親」(40.8%)が最も多く、以下「配偶者」(19.9%)、「兄弟姉妹」(13.5%)、「子ども」(13.3%)となっている。

なお、「一人で暮らしている」は26.4%となっている。

一緒に住んでいる人数については、平均1.9人となっている。

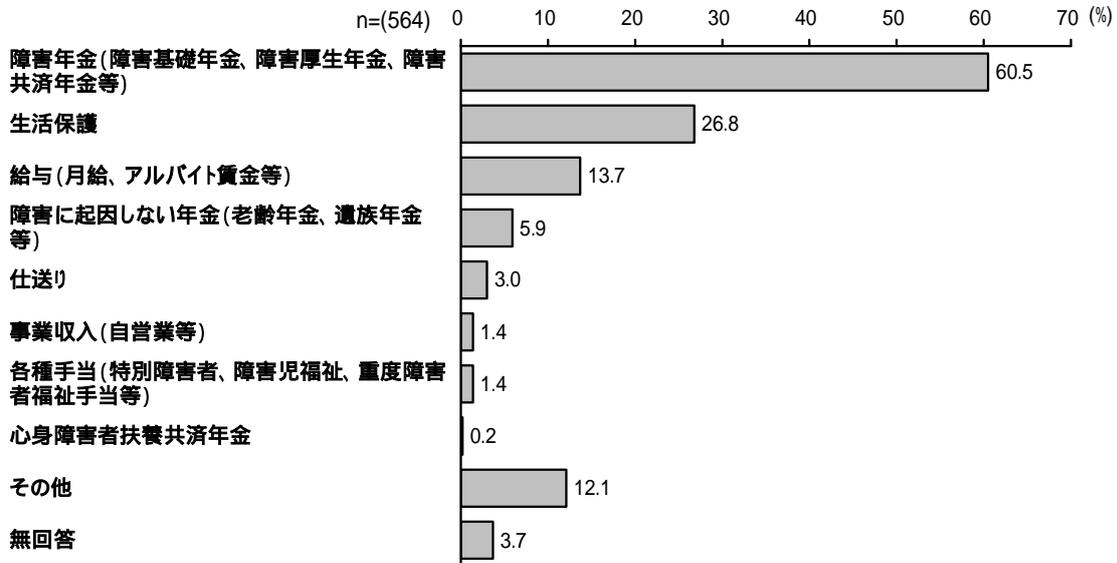
【年齢別】

	調査数 (n)	一人で暮らしている	配偶者	親	子ども	兄弟姉妹	祖父母	友人・知人等	その他	無回答
全体	564	149	112	230	75	76	11	7	32	10
	100.0	26.4	19.9	40.8	13.3	13.5	2.0	1.2	5.7	1.8
20歳未満	5	1	0	4	0	3	1	0	0	0
	100.0	20.0	0.0	80.0	0.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0
20～29歳	49	9	4	32	3	10	5	0	1	0
	100.0	18.4	8.2	65.3	6.1	20.4	10.2	0.0	2.0	0.0
30～39歳	132	20	17	84	14	24	3	2	5	0
	100.0	15.2	12.9	63.6	10.6	18.2	2.3	1.5	3.8	0.0
40～49歳	134	26	29	69	24	16	0	0	5	3
	100.0	19.4	21.6	51.5	17.9	11.9	0.0	0.0	3.7	2.2
50～59歳	121	49	24	31	16	9	1	1	8	1
	100.0	40.5	19.8	25.6	13.2	7.4	0.8	0.8	6.6	0.8
60～69歳	90	32	31	5	15	10	0	3	10	3
	100.0	35.6	34.4	5.6	16.7	11.1	0.0	3.3	11.1	3.3
70～79歳	17	9	5	0	2	1	0	1	2	0
	100.0	52.9	29.4	0.0	11.8	5.9	0.0	5.9	11.8	0.0
80歳以上	4	1	0	0	1	1	0	0	1	0
	100.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0

年齢別にみると、49歳までは「親」、50歳以上では「一人で暮らしている」がそれぞれ最も多くなっている。

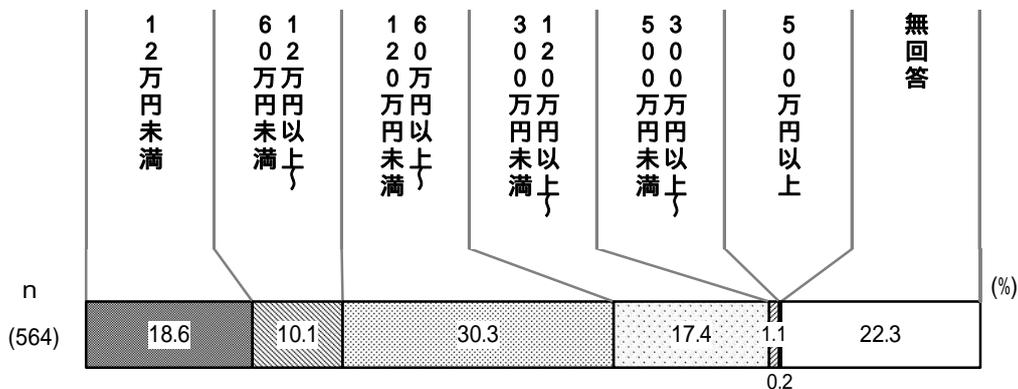
3 所得状況について

問 12 あなたが得ている収入は次のうちどれですか。(M A)



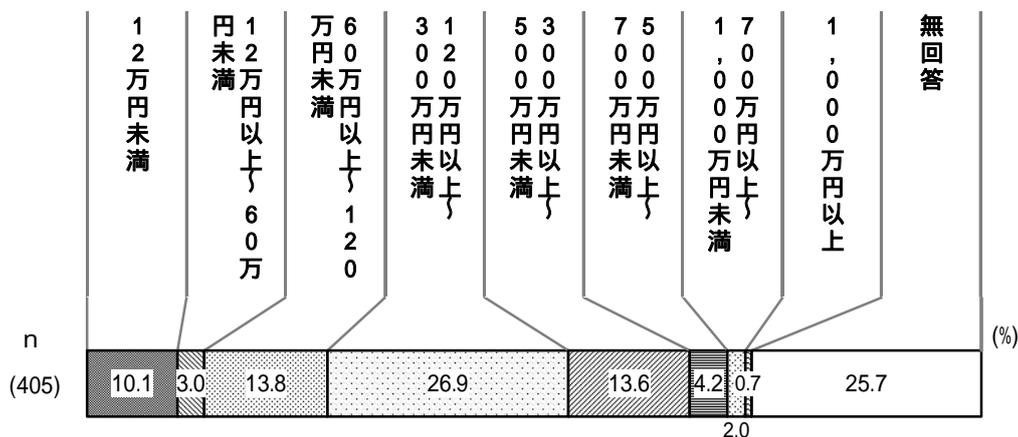
得ている収入の種類については、「障害年金(障害基礎年金、障害厚生年金、障害共済年金等)」(60.5%)が最も多く、以下「生活保護」(26.8%)、「給与(月給、アルバイト賃金等)」(13.7%)となっている。

問 13 あなたの年収(税込)はだいたいどのくらいですか。(S A)



年収については、「60万円以上～120万円未満」(30.3%)が最も多く、以下「12万円未満」(18.6%)、「120万円以上～300万円未満」(17.4%)となっている。

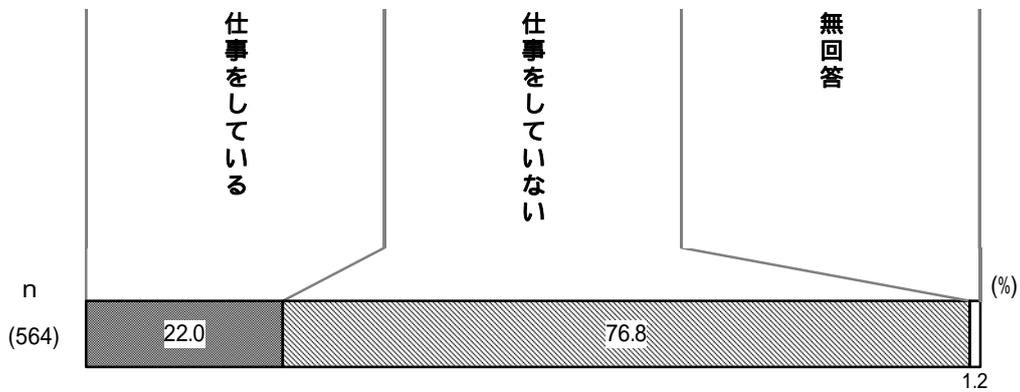
問 14 一緒に暮らしている家族（あなたの年収を除く）の年収（税込）はだいたいどのくらいですか。（S A）



同居している家族の年収については、「120万円以上～300万円未満」(26.9%)が最も多く、以下「60万円以上～120万円未満」(13.8%)、「300万円以上～500万円未満」(13.6%)となっている。

4 就労状況について

問 15 あなたは仕事をしていますか。(S A)



仕事の有無については、「仕事をしている」が 22.0%、「仕事をしていない」が 76.8%となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	仕事をして いる	仕事をして いない	無 回 答
上段：件数 下段：%				
全体	564 100.0	124 22.0	433 76.8	7 1.2
20歳未満	5 100.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0
20～29歳	49 100.0	15 30.6	34 69.4	0 0.0
30～39歳	132 100.0	46 34.8	86 65.2	0 0.0
40～49歳	134 100.0	29 21.6	103 76.9	2 1.5
50～59歳	121 100.0	20 16.5	99 81.8	2 1.7
60～69歳	90 100.0	12 13.3	78 86.7	0 0.0
70～79歳	17 100.0	0 0.0	16 94.1	1 5.9
80歳以上	4 100.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0

年齢別にみると、「仕事をしている」は 20～39 歳で 30%台と他の年齢に比べて多くなっている。

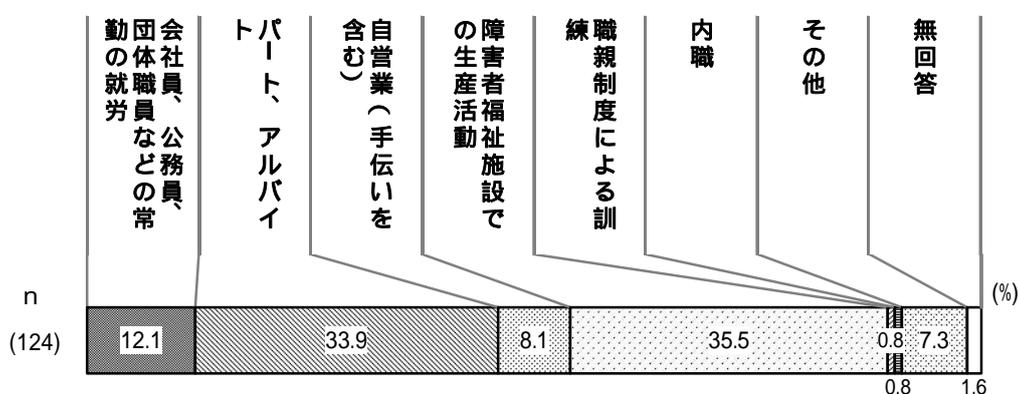
【精神障害者保健福祉手帳の有無別】

上段：件数 下段：%	調査数 (n)	仕事を している	仕事を していない	無 回答
全体	564 100.0	124 22.0	433 76.8	7 1.2
1級を持っている	70 100.0	6 8.6	62 88.6	2 2.9
2級を持っている	380 100.0	77 20.3	299 78.7	4 1.1
3級を持っている	103 100.0	38 36.9	65 63.1	0 0.0
手帳制度を知らな かった	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
制度は知っていた が持っていない	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
これから申請したい (申請中である)	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
わからない	4 100.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0
その他	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3

精神障害者保健福祉手帳の有無別にみると、「仕事をしている」との回答は1級所持者で8.6%、2級所持者で20.3%、3級所持者で36.9%となっている。

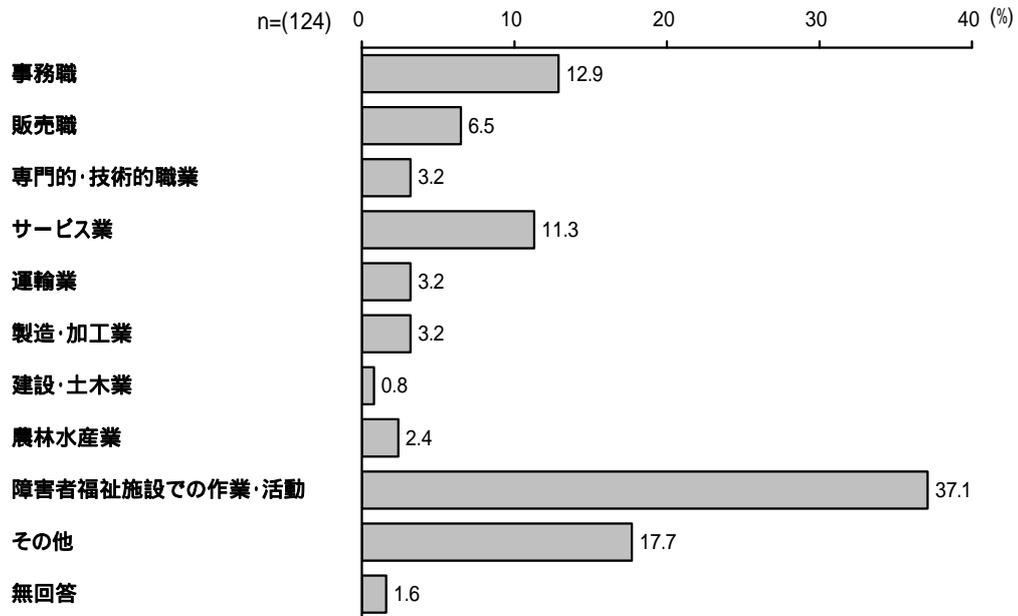
問 16 15で「1 仕事をしている」を選択した方におたずねします。

(1) どのような仕事に就いていますか。(SA)



就いている仕事の種類については、「障害者福祉施設での生産活動」(35.5%)が最も多く、以下「パート、アルバイト」(33.9%)となっている。

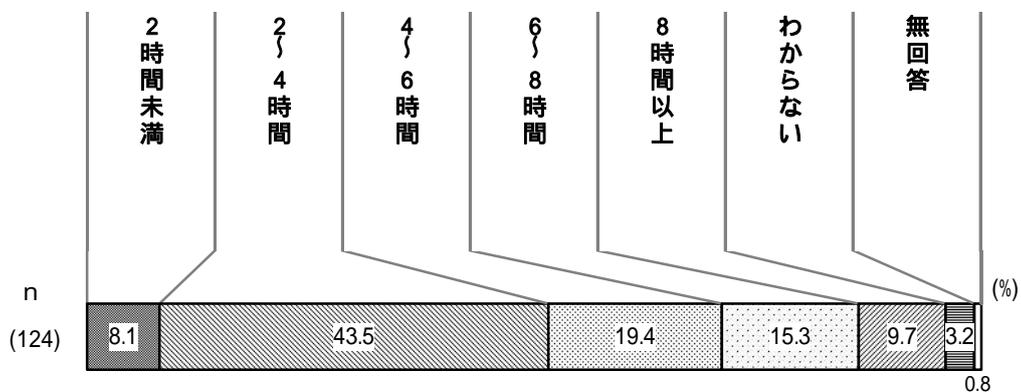
(2) どのような内容の仕事をしていますか。(SA)



仕事の内容については、「障害者福祉施設での作業・活動」(37.1%)が最も多く、以下「事務職」(12.9%)、「サービス業」(11.3%)となっている。

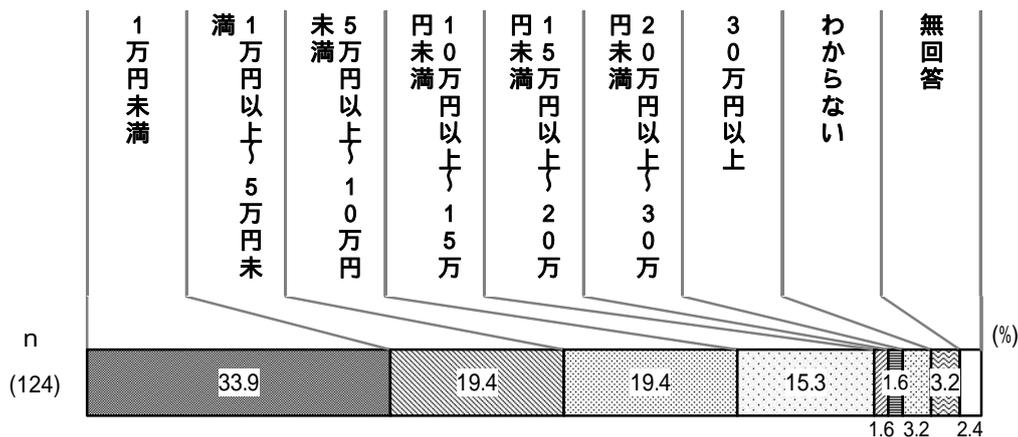
なお、「その他」(17.7%)の内容については、「清掃」が多くなっている。

(3) 1日あたりの仕事の時間はどのくらいですか(でしたか)。(SA)



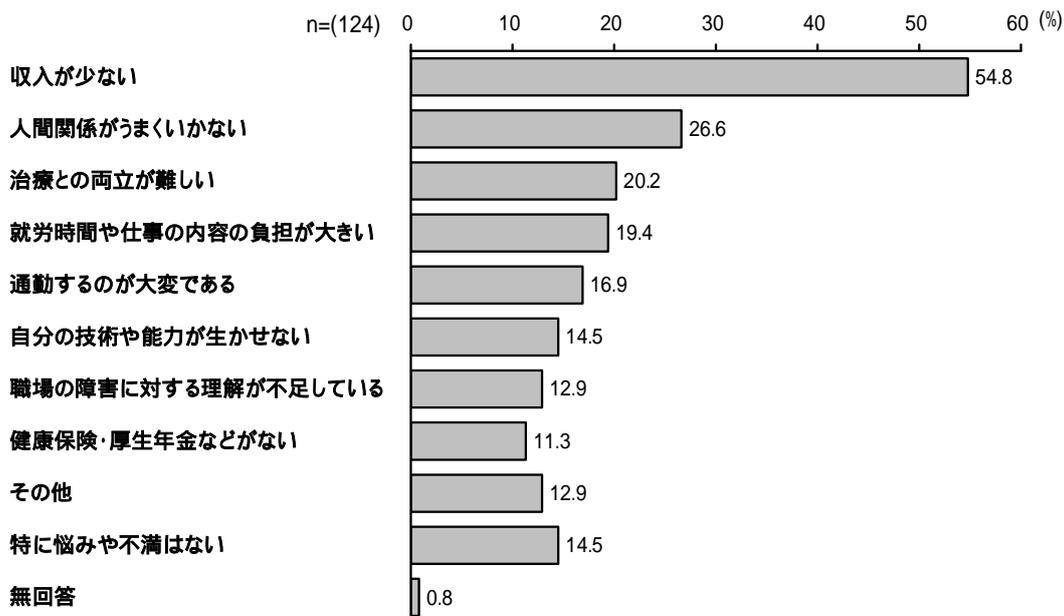
1日あたりの仕事時間については、「2~4時間」(43.5%)が最も多く、以下「4~6時間」(19.4%)、「6~8時間」(15.3%)となっている。

(4) 仕事による収入は月額どのくらいですか。(S A)



仕事による月収については、「1万円未満」(33.9%)が最も多く、以下「1万円以上～5万円未満」、「5万円以上～10万円未満」(ともに19.4%)、「10万円以上～15万円未満」(15.3%)となっている。

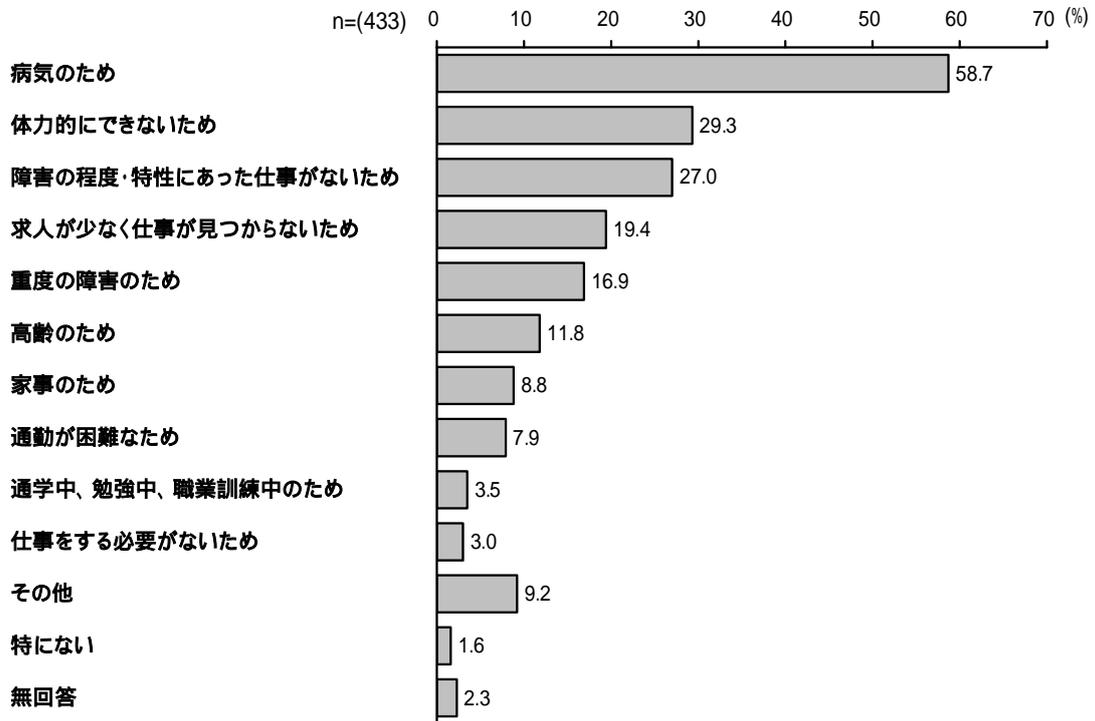
(5) あなたは仕事をしている上で、何か悩みや不満などありますか。(M A)



仕事をしている上での悩みや不満については、「収入が少ない」(54.8%)が最も多く、以下「人間関係がうまくいかない」(26.6%)、「治療との両立が難しい」(20.2%)、「就労時間や仕事の内容の負担が大きい」(19.4%)となっている。

問 17 15 において「2 仕事をしていない」を選択した方におたずねします。

あなたが仕事をしていない理由は何ですか。(MA)



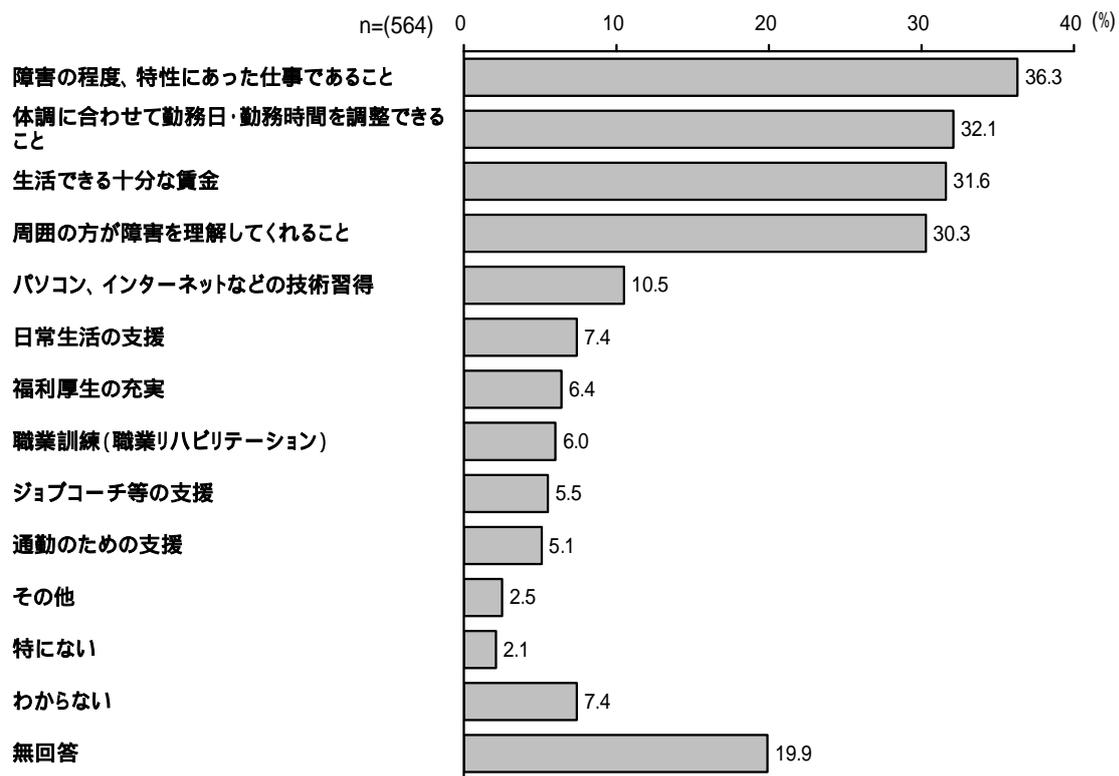
仕事をしていない理由については、「病気のため」(58.7%)が最も多く、以下「体力的にできないため」(29.3%)、「障害の程度・特性にあった仕事がないため」(27.0%)、「求人がなく仕事が見つからないため」(19.4%)、「重度の障害のため」(16.9%)となっている。

【精神障害者保健福祉手帳の有無別】

	調査数（n）	病気の ため	体的に できない ため	障害の 程度が ない・特 性にあ つ	求人が 少なく 仕事が見 つ	重度の 障害の ため	高齢の ため	家事の ため	通勤が 困難な ため	通学中、 勉強中、 職業訓 練のため	仕事を する必 要がな い	その他	特にな い	無回 答
全体	433 100.0	254 58.7	127 29.3	117 27.0	84 19.4	73 16.9	51 11.8	38 8.8	34 7.9	15 3.5	13 3.0	40 9.2	7 1.6	10 2.3
1級を持っている	62 100.0	35 56.5	14 22.6	15 24.2	6 9.7	20 32.3	8 12.9	3 4.8	4 6.5	2 3.2	3 4.8	4 6.5	1 1.6	3 4.8
2級を持っている	299 100.0	181 60.5	95 31.8	82 27.4	56 18.7	45 15.1	31 10.4	26 8.7	24 8.0	10 3.3	10 3.3	27 9.0	3 1.0	6 2.0
3級を持っている	65 100.0	35 53.8	17 26.2	19 29.2	22 33.8	6 9.2	9 13.8	9 13.8	6 9.2	3 4.6	0 0.0	8 12.3	3 4.6	1 1.5
手帳制度を知らなかつた	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
制度は知っていたが持っていない	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
これから申請したい（申請中である）	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
わからない	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0

精神障害者保健福祉手帳の有無別にみると、等級が重くなるにしたがって「重度の障害のため」が多くなっている。

問 18 仕事を続ける（就職する）ためには何が必要だと思いますか。（M A）



仕事を続ける（就職する）ために必要なことについては、「障害の程度、特性にあった仕事であること」（36.3%）が最も多く、以下「体調に合わせて勤務日・勤務時間を調整できること」（32.1%）、「生活できる十分な賃金」（31.6%）、「周囲の方が障害を理解してくれること」（30.3%）となっている。

【精神障害者保健福祉手帳の有無別】

	調査数 (n)	た障害の程度、特性にあった仕事であること	と勤務時間に合わせて勤務日・体調に合わせた調整できること	生活できる十分な賃金	て周囲の方が障害を理解してくれること	パソコン、インターネットなどの技術習得	日常生活の支援	福利厚生の実	職業訓練（職業リハビリテーション）	ジョブコーチ等の支援	通勤のための支援	その他	特にな	わからない	無回答
全体	564 100.0	205 36.3	181 32.1	178 31.6	171 30.3	59 10.5	42 7.4	36 6.4	34 6.0	31 5.5	29 5.1	14 2.5	12 2.1	42 7.4	112 19.9
1級を持っている	70 100.0	23 32.9	17 24.3	14 20.0	22 31.4	5 7.1	10 14.3	5 7.1	8 11.4	5 7.1	4 5.7	1 1.4	2 2.9	7 10.0	16 22.9
2級を持っている	380 100.0	142 37.4	123 32.4	116 30.5	113 29.7	39 10.3	24 6.3	19 5.0	21 5.5	19 5.0	20 5.3	10 2.6	8 2.1	28 7.4	79 20.8
3級を持っている	103 100.0	36 35.0	38 36.9	42 40.8	33 32.0	15 14.6	7 6.8	11 10.7	5 4.9	7 6.8	5 4.9	3 2.9	0 0.0	7 6.8	15 14.6
手帳制度を知らなかった	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
制度は知っていたが持っていない	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
これから申請したい（申請中である）	2 100.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
わからない	4 100.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0
その他	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0

精神障害者保健福祉手帳の有無別にみると、等級が軽くなるにしたがって「体調に合わせて勤務日・勤務時間を調整できること」、「生活できる十分な賃金」が多くなっている。

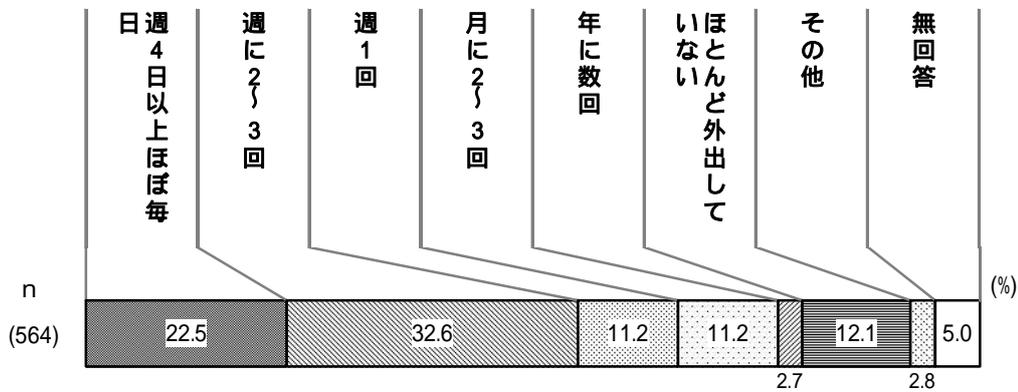
【仕事の有無別】

	調査数 (n)	た障害の程度、特性にあった仕事であること	と勤務時間に合わせて勤務日・体調に合わせた調整できること	生活できる十分な賃金	て周囲の方が障害を理解してくれること	パソコン、インターネットなどの技術習得	日常生活の支援	福利厚生の実	職業訓練（職業リハビリテーション）	ジョブコーチ等の支援	通勤のための支援	その他	特にな	わからない	無回答
全体	564 100.0	205 36.3	181 32.1	178 31.6	171 30.3	59 10.5	42 7.4	36 6.4	34 6.0	31 5.5	29 5.1	14 2.5	12 2.1	42 7.4	112 19.9
仕事をしている	124 100.0	47 37.9	41 33.1	61 49.2	40 32.3	15 12.1	12 9.7	16 12.9	7 5.6	7 5.6	11 8.9	6 4.8	1 0.8	3 2.4	14 11.3
仕事をしていない	433 100.0	157 36.3	138 31.9	116 26.8	130 30.0	43 9.9	29 6.7	19 4.4	27 6.2	24 5.5	18 4.2	8 1.8	11 2.5	39 9.0	94 21.7

仕事の有無別にみると、仕事をしている人では「生活できる十分な賃金」が49.2%であるのに対し、仕事をしていない人では26.8%と差が大きい。

5 社会参加について

問 19 あなたは通勤、通学、通院、通所以外でどの程度外出していますか。(S A)



通勤、通学、通院、通所以外の外出頻度については、「週 2～3 回」(32.6%) が最も多く、以下「週 4 日以上ほぼ毎日」(22.5%)、「週 1 回」、「月に 2～3 回」(ともに 11.2%) となっている。なお、「ほとんど外出していない」は 12.1% となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	週 4 日以上ほぼ毎日	週に 2 ~ 3 回	週 1 回	月に 2 ~ 3 回	年に数回	ほとんど外出していない	その他	無回答
全体	564	127	184	63	63	15	68	16	28
	100.0	22.5	32.6	11.2	11.2	2.7	12.1	2.8	5.0
20歳未満	5	0	1	1	2	0	1	0	0
	100.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0
20～29歳	49	12	13	9	8	0	5	1	1
	100.0	24.5	26.5	18.4	16.3	0.0	10.2	2.0	2.0
30～39歳	132	35	37	18	12	4	22	3	1
	100.0	26.5	28.0	13.6	9.1	3.0	16.7	2.3	0.8
40～49歳	134	37	49	10	16	2	9	5	6
	100.0	27.6	36.6	7.5	11.9	1.5	6.7	3.7	4.5
50～59歳	121	24	36	17	12	4	17	2	9
	100.0	19.8	29.8	14.0	9.9	3.3	14.0	1.7	7.4
60～69歳	90	15	33	7	9	2	10	3	11
	100.0	16.7	36.7	7.8	10.0	2.2	11.1	3.3	12.2
70～79歳	17	2	8	1	2	1	3	0	0
	100.0	11.8	47.1	5.9	11.8	5.9	17.6	0.0	0.0
80歳以上	4	0	2	0	0	0	1	1	0
	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0

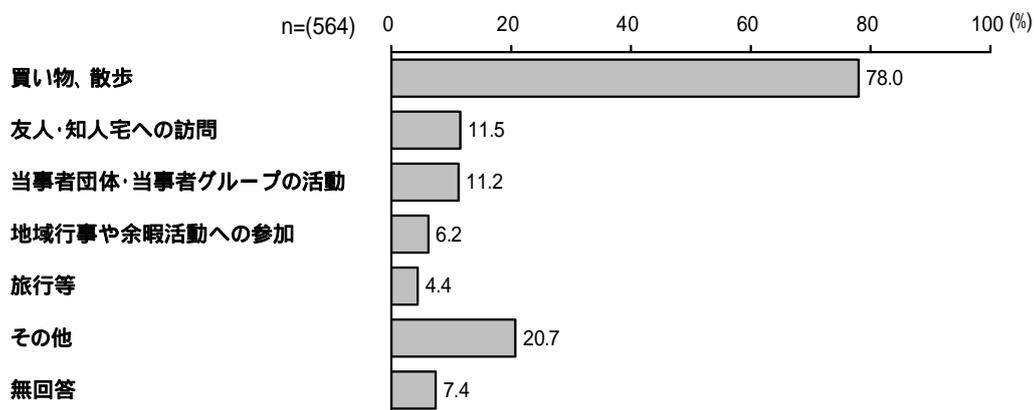
年齢別にみると、20～49歳では「週 4 日以上ほぼ毎日」が 20% 以上であるのに対し、50～79歳では 10% 台とやや少なくなっている。

【精神障害者保健福祉手帳の有無別】

	調査数 (n)	週4日以上 ほぼ毎日	週に2 3回	週1回	月に2 3回	年に 数回	ほとんど 外出して いない	その他	無回答
全体	564 100.0	127 22.5	184 32.6	63 11.2	63 11.2	15 2.7	68 12.1	16 2.8	28 5.0
1級を持っている	70 100.0	9 12.9	25 35.7	7 10.0	11 15.7	1 1.4	9 12.9	1 1.4	7 10.0
2級を持っている	380 100.0	85 22.4	125 32.9	41 10.8	43 11.3	13 3.4	43 11.3	13 3.4	17 4.5
3級を持っている	103 100.0	30 29.1	32 31.1	14 13.6	7 6.8	1 1.0	13 12.6	2 1.9	4 3.9
手帳制度を知らなかった	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
制度は知っていたが持っていない	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
これから申請したい (申請中である)	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
わからない	4 100.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0
その他	3 100.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

精神障害者保健福祉手帳の有無別にみると、等級が軽くなるにしたがって「週4日以上ほぼ毎日」が多くなっている。

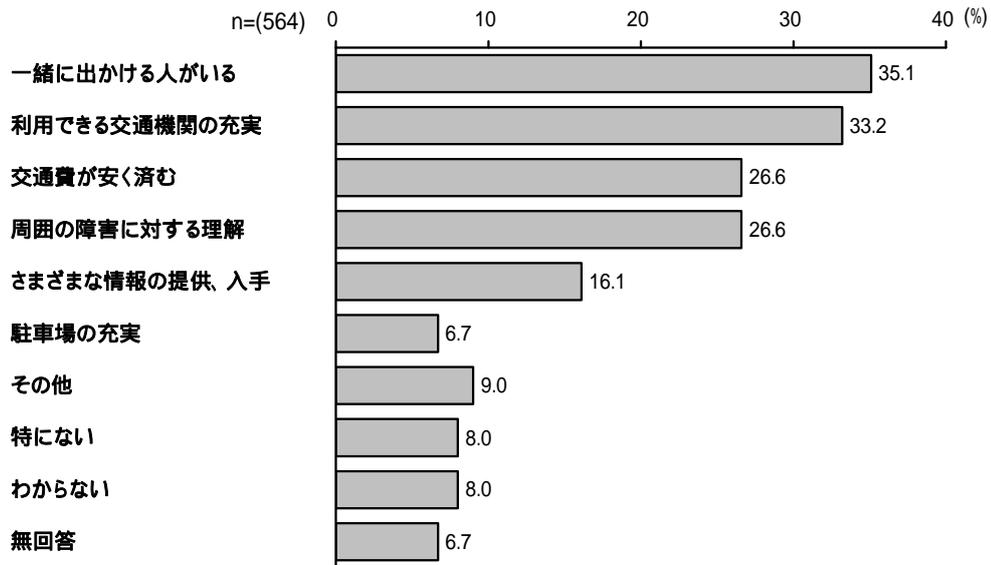
問20 あなたの外出の主な目的は何ですか。(MA)



外出の主な目的については、「買い物、散歩」(78.0%)が最も多く、以下「友人・知人宅への訪問」(11.5%)、「当事者団体・当事者グループの活動」(11.2%)となっている。

なお、「その他」(20.7%)の内容については、「病院・通院」が多くなっている。

問 21 あなたがより外出しやすくなるためには何が必要ですか。(M A)



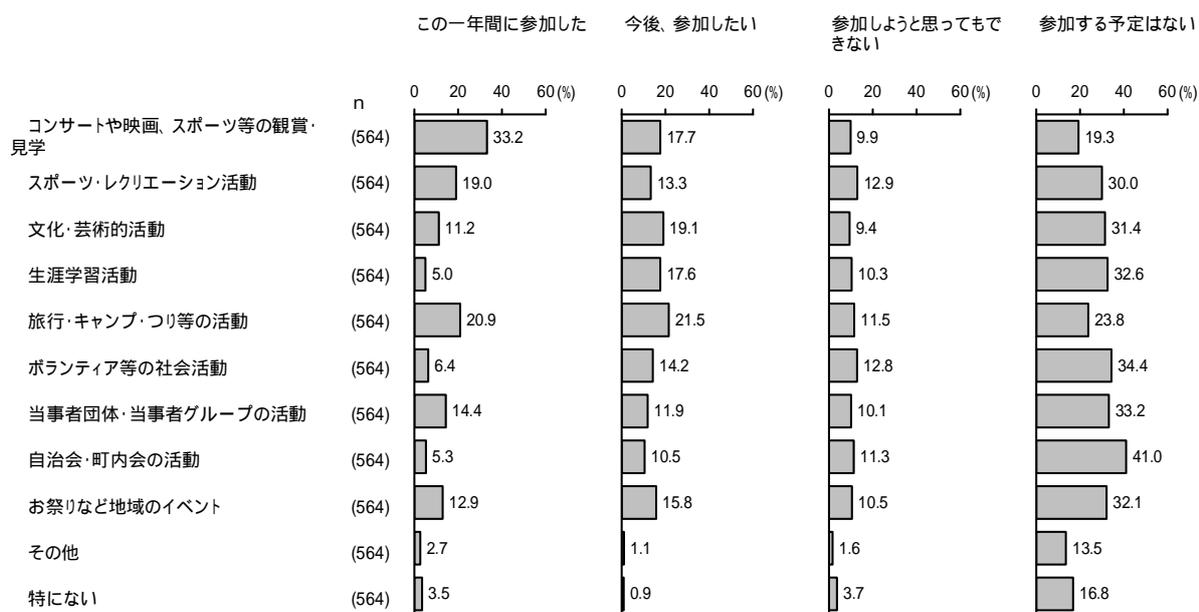
より外出しやすくなるために必要なことについては、「一緒に出かける人がいる」(35.1%)、「利用できる交通機関の充実」(33.2%)がともに多く、以下「交通費が安く済む」、「周囲の障害に対する理解」(ともに26.6%)となっている。

【精神障害者保健福祉手帳の有無別】

	調査数 (n)	一緒に出かける人	利用できる交通機関	交通費が安く済む	周囲の障害に対する	さまざまな情報の提供、入手	駐車場の充実	その他	特にない	わからない	無回答
全体	564	198	187	150	150	91	38	51	45	45	38
	100.0	35.1	33.2	26.6	26.6	16.1	6.7	9.0	8.0	8.0	6.7
1級を持っている	70	32	19	20	22	9	3	8	3	6	8
	100.0	45.7	27.1	28.6	31.4	12.9	4.3	11.4	4.3	8.6	11.4
2級を持っている	380	129	120	87	91	55	22	36	38	28	26
	100.0	33.9	31.6	22.9	23.9	14.5	5.8	9.5	10.0	7.4	6.8
3級を持っている	103	31	44	39	34	25	13	6	3	10	4
	100.0	30.1	42.7	37.9	33.0	24.3	12.6	5.8	2.9	9.7	3.9
手帳制度を知らなかった	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
制度は知っていたが持っていない	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
これから申請したい(申請中である)	2	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	4	3	2	1	0	0	0	0	1	0	0
	100.0	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
その他	3	1	1	1	1	0	0	1	0	1	0
	100.0	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0

精神障害者保健福祉手帳の有無別にみると、1級所持者、2級所持者では「一緒に出かける人がいる」、3級所持者では「利用できる交通機関の充実」がそれぞれ最も多くなっている。

問 22 あなたは過去一年間に、余暇活動、趣味、学習、スポーツや社会活動などをしましたか。また、今後どのような活動をしたいと思いますか。(MA)



参加した（参加したい）活動については、この一年間に参加した人が多いのは、『コンサートや映画、スポーツ等の観賞・見学』（33.2%）、『旅行・キャンプ・つり等の活動』（20.9%）、『スポーツ・レクリエーション活動』（19.0%）となっている。

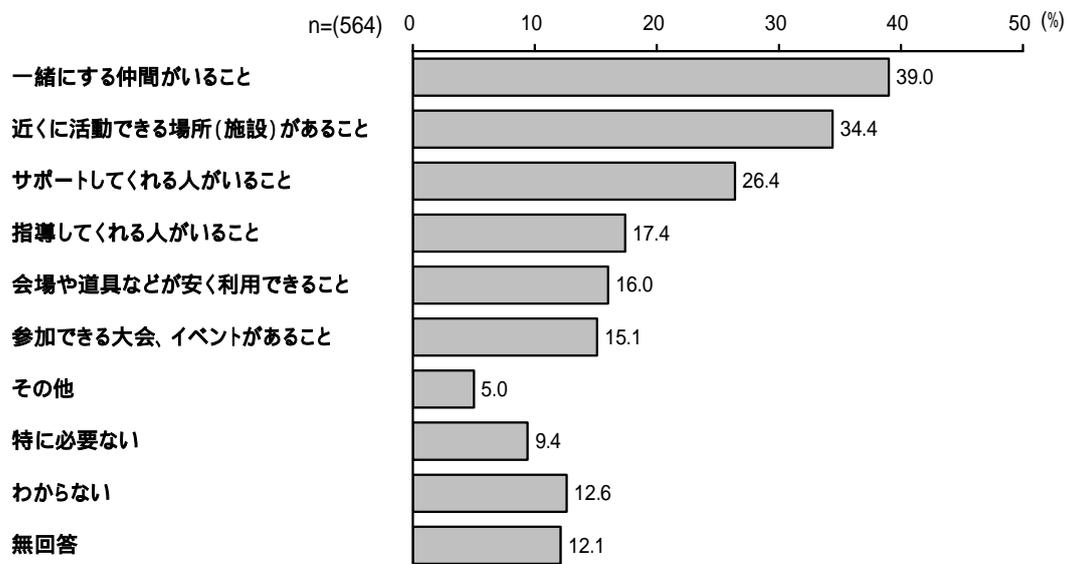
今後、参加したい人が多いのは、『旅行・キャンプ・つり等の活動』（21.5%）、『文化・芸術的活動』（19.1%）となっている。

「参加しようと思ってもできない」については、いずれも9～12%台となっている。

「参加する予定はない」については、『自治会・町内会の活動』（41.0%）、『ボランティア等の社会活動』（34.4%）、『当事者団体・当事者グループの活動』（33.2%）など、『旅行・キャンプ・つり等の活動』（23.8%）、『コンサートや映画、スポーツ等の観賞・見学』（19.3%）を除く各項目で30%を超えている。

問 23 どのようなことがあればスポーツや娯楽をより楽しむことができますか。

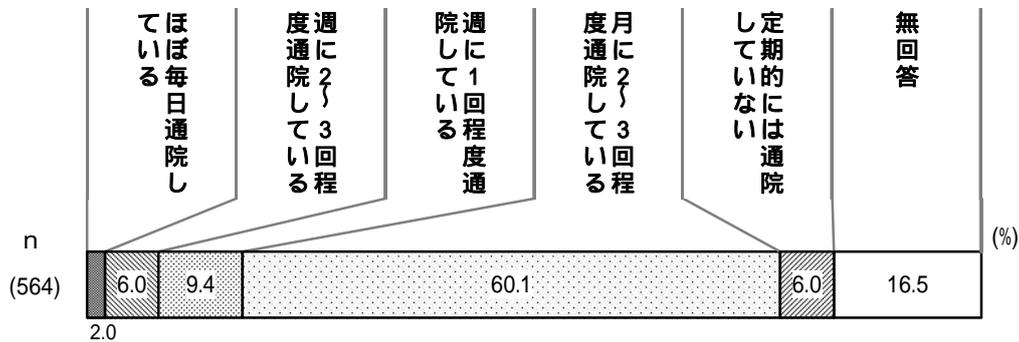
(M A)



スポーツや娯楽をより楽しむために必要なことについては、「一緒にする仲間がいること」(39.0%)が最も多く、以下「近くに活動できる場所(施設)があること」(34.4%)、「サポートしてくれる人があること」(26.4%)となっている。

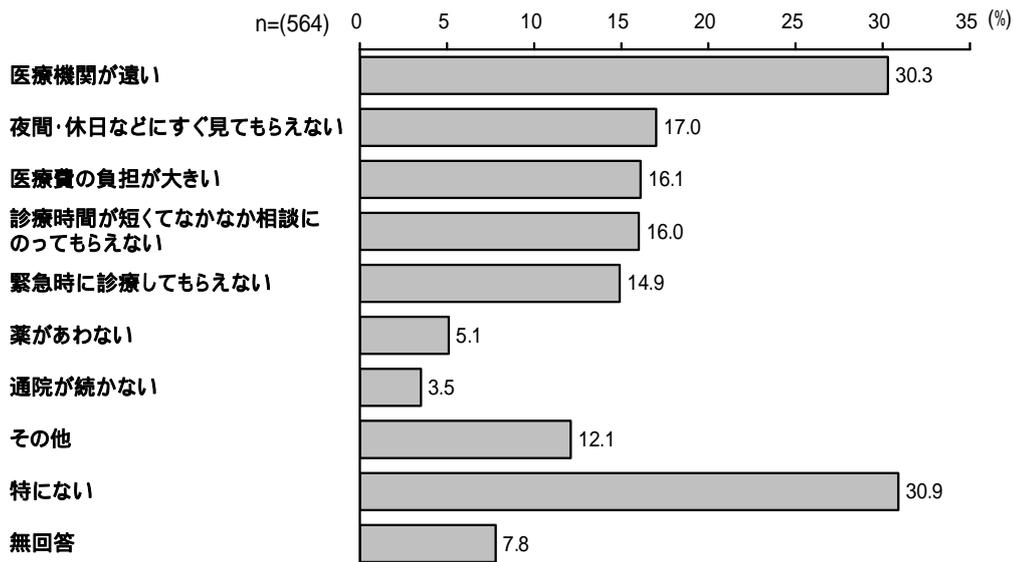
6 健康・医療について

問 24 普段、定期的に通院していますか。(S A)



定期的通院の有無については、「月に2~3回程度通院している」(60.1%)が最も多く、以下「週に1回程度通院している」(9.4%)となっている。

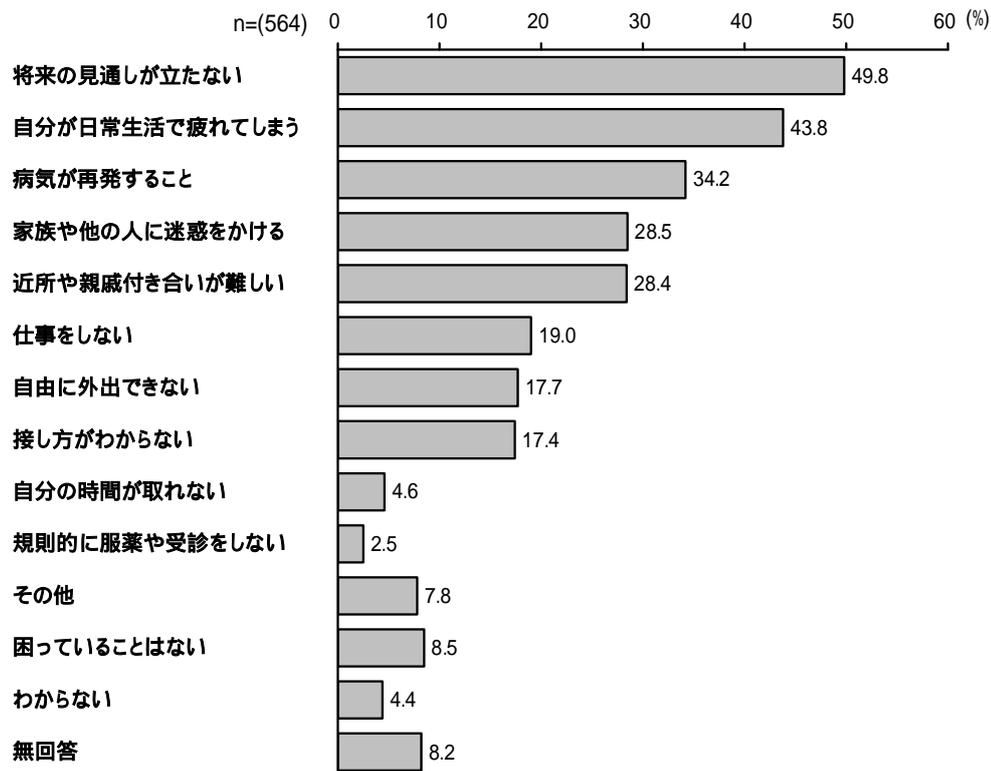
問 25 精神科診療の上で困ったことがありますか。(M A)



精神科診療の上で困っていることについては、「医療機関が遠い」(30.3%)が最も多く、以下「夜間・休日などにすぐ見てもらえない」(17.0%)、「医療費の負担が大きい」(16.1%)、「診療時間が短くてなかなか相談にのってもらえない」(16.0%)、「緊急時に診療してもらえない」(14.9%)となっている。

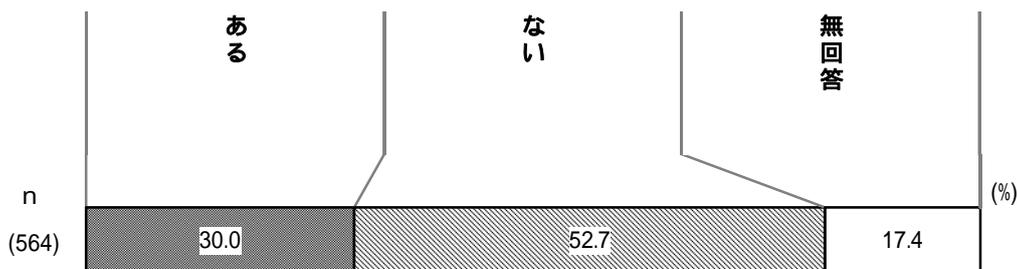
なお、「特にない」は30.9%となっている。

問 26 診療以外で精神疾患のことで困っていることはありますか。(M A)



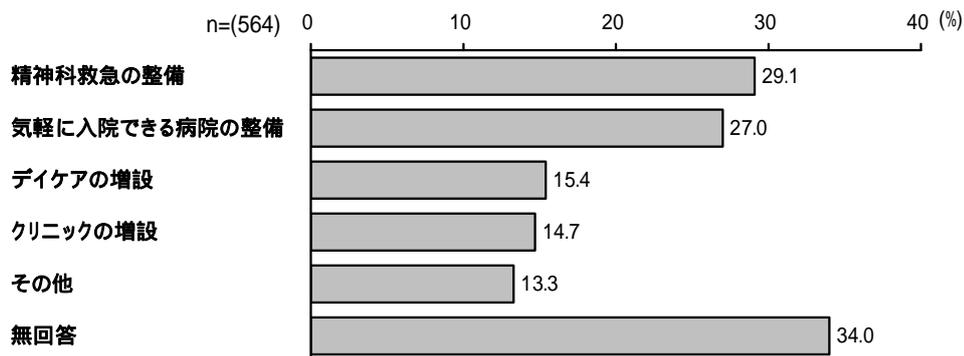
診療以外で精神疾患で困っていることについては、「将来の見通しが立たない」(49.8%)が最も多く、以下「自分が日常生活で疲れてしまう」(43.8%)、「病気が再発すること」(34.2%)、「家族や他の人に迷惑をかける」(28.5%)、「近所や親戚付き合いが難しい」(28.4%)となっている。

問 27 精神科以外の疾患、診療で困っていることはありますか。ある場合はカッコ内に具体的な内容を記入してください。(S A)



精神以外の疾患、診療で困っていることの有無については、困っていることがある人が30.0%、ない人が52.7%となっている。

問 28 医療に望むことは何ですか。(M A)



医療に望むことについては、「精神科救急の整備」(29.1%)、「気軽に入院できる病院の整備」(27.0%)がともに多く、以下「デイケアの増設」(15.4%)、「クリニックの増設」(14.7%)となっている。

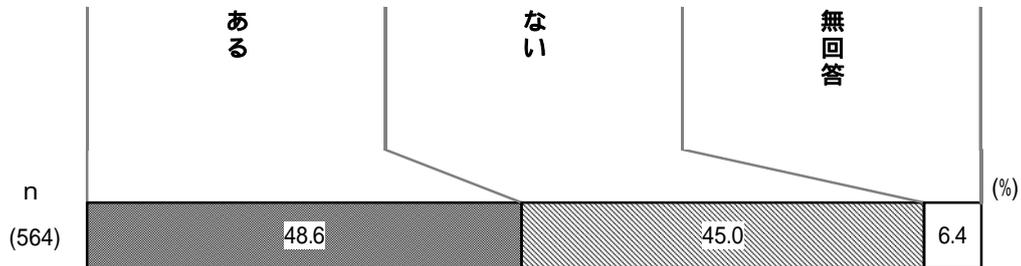
【精神科入院の有無別】

	調査数 (n)	精神科救急の整備	気軽に入院できる病院の整備	デイケアの増設	クリニックの増設	その他	無回答
上段：件数 下段：%							
全体	564 100.0	164 29.1	152 27.0	87 15.4	83 14.7	75 13.3	192 34.0
入院したことがない	166 100.0	41 24.7	31 18.7	19 11.4	32 19.3	26 15.7	58 34.9
1回	131 100.0	32 24.4	30 22.9	19 14.5	14 10.7	19 14.5	46 35.1
2～4回	165 100.0	53 32.1	55 33.3	32 19.4	21 12.7	18 10.9	53 32.1
5～9回	61 100.0	19 31.1	21 34.4	10 16.4	7 11.5	8 13.1	21 34.4
10回以上	30 100.0	15 50.0	13 43.3	7 23.3	7 23.3	3 10.0	10 33.3

精神科入院の有無別にみると、入院回数が多くなるにしたがって「気軽に入院できる病院の整備」が多くなっている。

7 福祉サービスについて

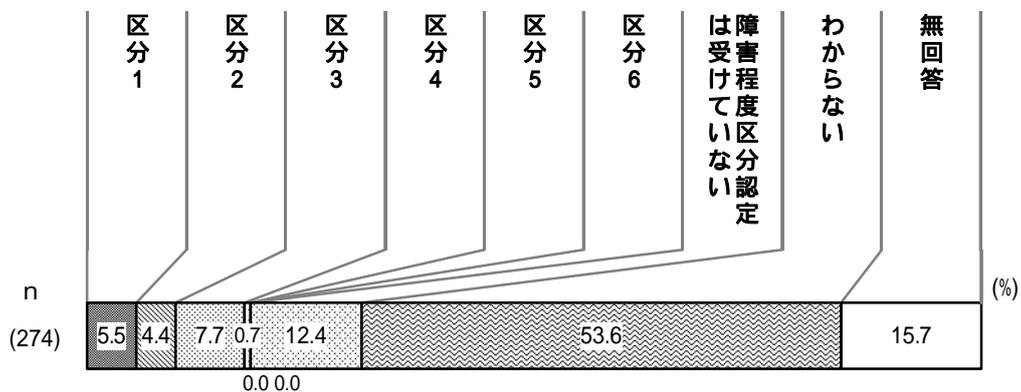
問 29 あなたは障害者の福祉サービスを利用した事がありますか。(S A)



障害者の福祉サービス利用の有無については、「ある」が 48.6%、「ない」が 45.0%となっている。

問 30 29 において「1 ある」を選択した方におたずねします。

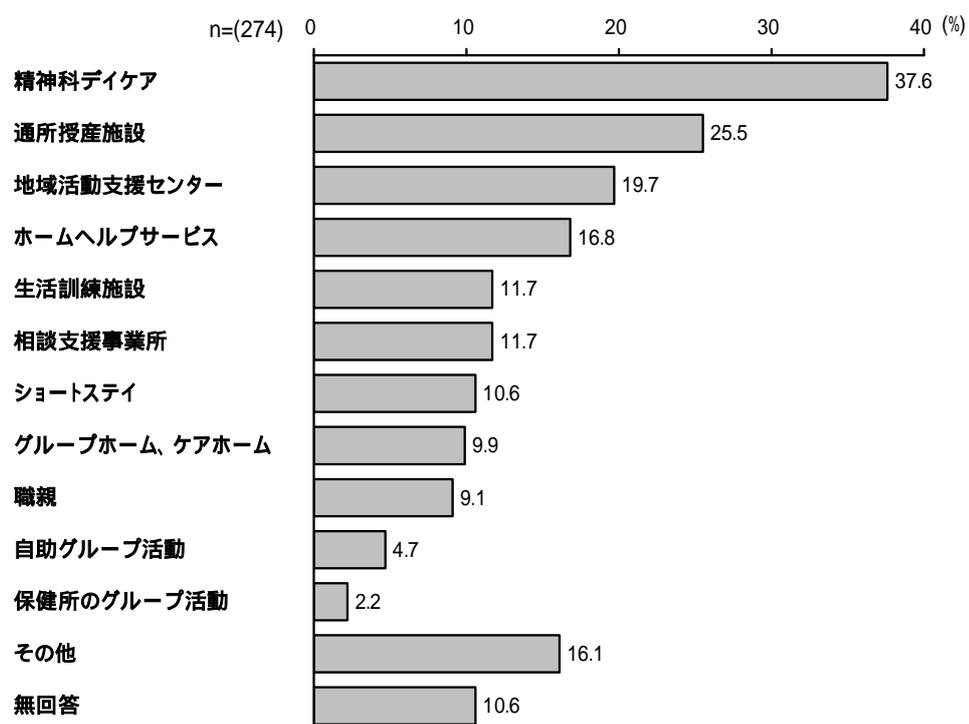
(1) あなたはサービスを利用するための、障害程度区分認定を受けていますか。(S A)



サービスを利用するための障害程度区分認定の有無については、「区分 3」(7.7%)、「区分 1」(5.5%)、「区分 2」(4.4%)、「区分 4」(0.7%)となっている。これらを合わせると障害程度認定区分を受けている人は 18.3%となっている。

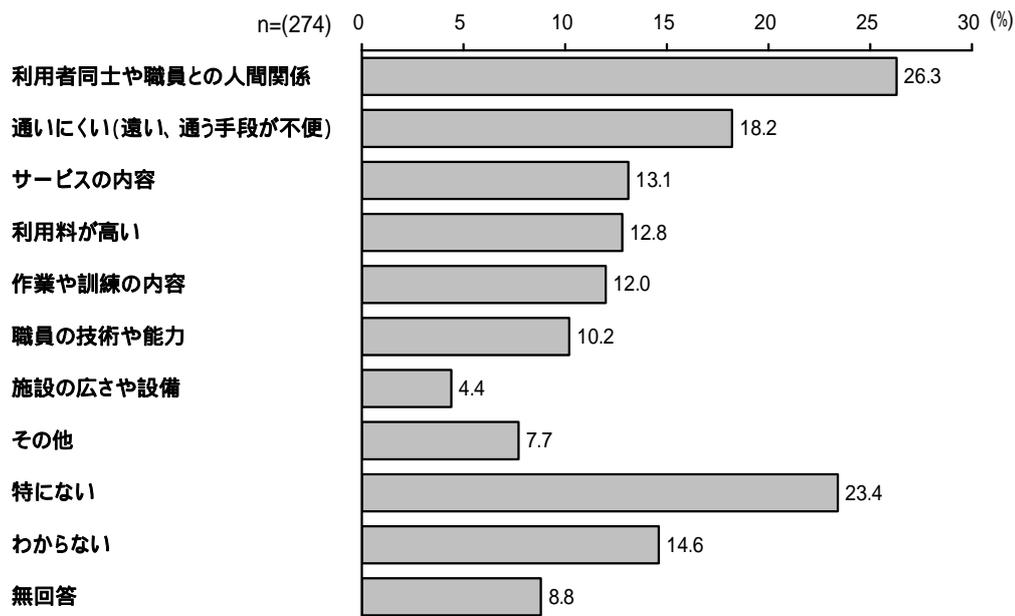
なお、「障害程度区分認定は受けていない」は 12.4%、「わからない」は 53.6%となっている。

(2) これまでにどのような福祉サービスを利用したことがありますか。(M A)



これまでに利用した福祉サービスについては、「精神科デイケア」(37.6%)が最も多く、以下「通所授産施設」(25.5%)、「地域活動支援センター」(19.7%)、「ホームヘルプサービス」(16.8%)となっている。

(3) 福祉サービスを利用するにあたって不自由していることは何ですか。(MA)

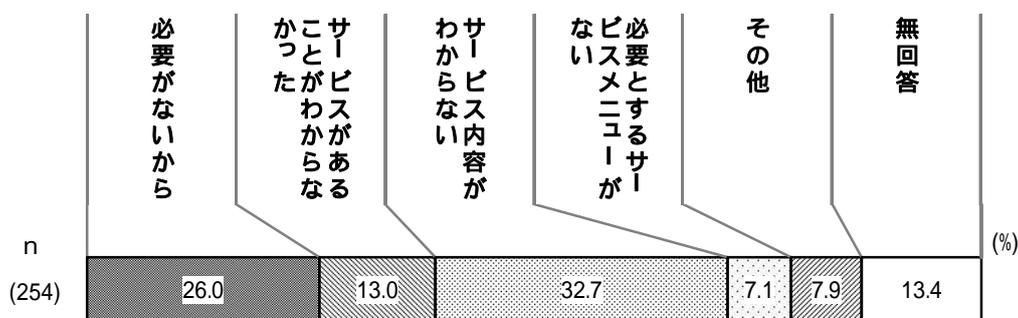


福祉サービスを利用するにあたって不自由していることについては、「利用者同士や職員との人間関係」(26.3%)が最も多く、以下「通にくい(遠い、通う手段が不便)」(18.2%)となっている。

なお、「特にない」は23.4%、「わからない」は14.6%となっている。

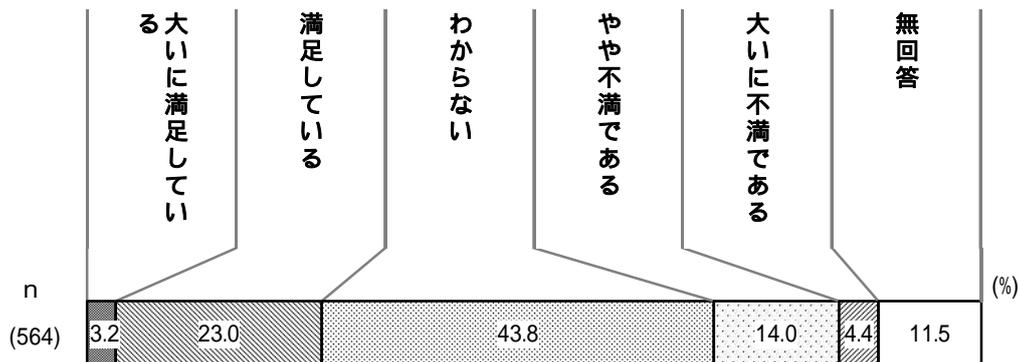
問31 29において「2 ない」を選択した方におたずねします。

利用したことがない理由は何ですか。(SA)



福祉サービスを利用しない理由については、「サービス内容がわからない」(32.7%)が最も多く、以下「必要がないから」(26.0%)、「サービスがあることがわからなかった」(13.0%)となっている。

問 32 現在、仙台市にある障害者の福祉サービスに満足していますか。(S A)



障害者の福祉サービスの満足度については、「大いに満足している」(3.2%)、「満足している」(23.0%)を合わせた《満足している》人は26.2%となっている。

一方、「やや不満である」(14.0%)、「大いに不満である」(4.4%)を合わせた《不満である》人は18.4%となっている。

なお、「わからない」人は43.8%となっている。

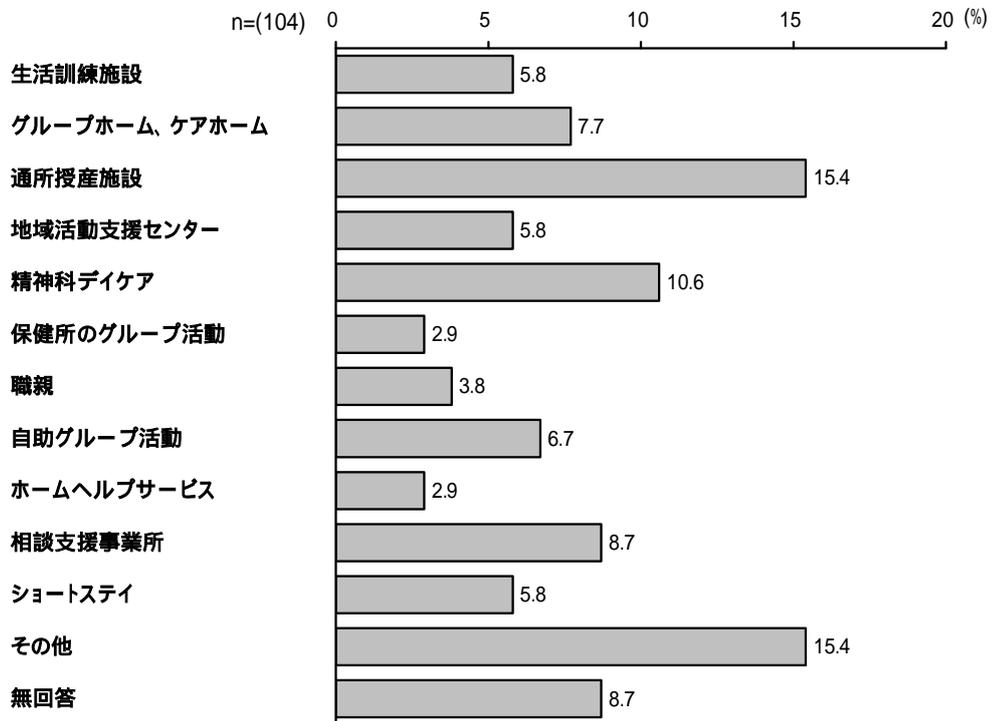
【年齢別】

	調査数 (n)	大いに満足している	満足している	わからない	やや不満である	大いに不満である	無回答
上段：件数 下段：%							
全体	564 100.0	18 3.2	130 23.0	247 43.8	79 14.0	25 4.4	65 11.5
20歳未満	5 100.0	0 0.0	0 0.0	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	49 100.0	2 4.1	11 22.4	23 46.9	6 12.2	3 6.1	4 8.2
30～39歳	132 100.0	2 1.5	27 20.5	53 40.2	31 23.5	9 6.8	10 7.6
40～49歳	134 100.0	6 4.5	30 22.4	59 44.0	18 13.4	7 5.2	14 10.4
50～59歳	121 100.0	4 3.3	28 23.1	57 47.1	12 9.9	1 0.8	19 15.7
60～69歳	90 100.0	4 4.4	28 31.1	36 40.0	6 6.7	5 5.6	11 12.2
70～79歳	17 100.0	0 0.0	3 17.6	8 47.1	2 11.8	0 0.0	4 23.5
80歳以上	4 100.0	0 0.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

年齢別にみると、20歳未満、30～39歳を除くすべての年齢で《満足している》人が《不満である》人を上回っている。

問 33 32 において「4 やや不満である」または「5 大いに不満である」を選択した方におたずねします。

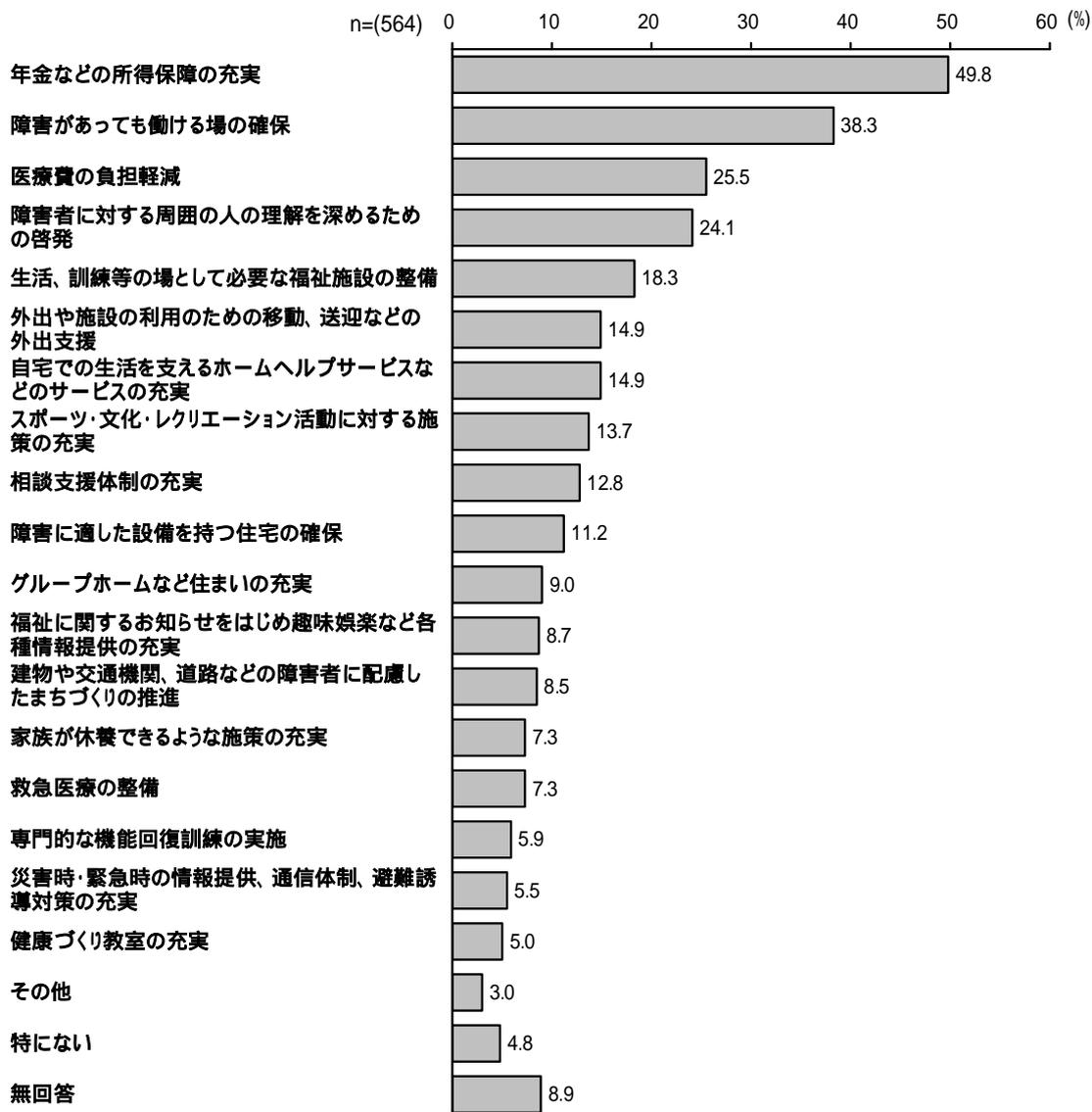
特にどのようなサービスが足りないと感じますか。(S A)



特に不満を感じる福祉サービスについては、「通所授産施設」(15.4%) が最も多く、以下「精神科デイケア」(10.6%) となっている。

なお、「その他」(15.4%) の内容については、「交通費助成の不足」や「就労移行支援サービス」などが挙げられている。

問 34 あなたが今後、充実してほしい施策は何ですか。(M A)



今後充実してほしい施策については、「年金などの所得保障の充実」(49.8%)が最も多く、以下「障害があっても働ける場の確保」(38.3%)、「医療費の負担軽減」(25.5%)、「障害者に対する周囲の人の理解を深めるための啓発」(24.1%)、「生活、訓練等の場として必要な福祉施設の整備」(18.3%)、「外出や施設の利用のための移動、送迎などの外出支援」、「自宅での生活を支えるホームヘルプサービスなどのサービスの充実」(ともに14.9%)となっている。

【年齢別】

上段：件数 下段：%	調査数（n）	年金などの所得保障の充実	障害があっても働ける場の確保	医療費の負担軽減	障害者に対する周囲の啓発	生活、訓練等の場としての必要な福祉施設の整備	外出や施設の利用のための支援	自らの移動、送迎などのためのサービス	自宅での生活を支えるサービス	スポーツ・文化・レクリエーション活動に対する施策の充実	相談支援体制の充実	障害に適した設備を持つ住宅の確保	グループホームなど住まいの充実	福祉に関するお知らせ情報提供の充実	はじめ趣味娯楽など各種	建物や交通機関、道路などの障害者に配慮したま
全体	564 100.0	281 49.8	216 38.3	144 25.5	136 24.1	103 18.3	84 14.9	84 14.9	77 13.7	72 12.8	63 11.2	63 11.2	51 9.0	49 8.7	48 8.5	48 8.5
20歳未満	5 100.0	3 60.0	5 100.0	2 40.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	49 100.0	24 49.0	24 49.0	17 34.7	21 42.9	9 18.4	5 10.2	5 10.2	9 18.4	6 12.2	5 10.2	5 10.2	2 4.1	3 6.1	5 10.2	5 10.2
30～39歳	132 100.0	74 56.1	78 59.1	37 28.0	36 27.3	27 20.5	23 17.4	15 11.4	14 10.6	27 20.5	12 9.1	12 9.1	8 6.1	11 8.3	12 9.1	12 9.1
40～49歳	134 100.0	69 51.5	58 43.3	31 23.1	36 26.9	22 16.4	19 14.2	16 11.9	16 11.9	18 13.4	15 11.2	15 11.2	17 12.7	9 6.7	15 11.2	15 11.2
50～59歳	121 100.0	59 48.8	31 25.6	26 21.5	17 14.0	28 23.1	22 18.2	21 17.4	21 17.4	9 7.4	19 15.7	19 15.7	11 9.1	15 12.4	11 9.1	11 9.1
60～69歳	90 100.0	44 48.9	17 18.9	21 23.3	16 17.8	12 13.3	12 13.3	23 25.6	16 17.8	6 6.7	9 10.0	9 10.0	8 8.9	9 10.0	3 3.3	3 3.3
70～79歳	17 100.0	4 23.5	1 5.9	4 23.5	4 23.5	2 11.8	2 11.8	1 5.9	0 0.0	1 5.9	2 11.8	2 11.8	2 11.8	1 5.9	1 5.9	1 5.9
80歳以上	4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0

上段：件数 下段：%	家族の充実 施策が休養できるような	救急医療の整備	専門的な機能回復訓練の実施	災害時・緊急時の情報提供、通信体制、避難誘導	健康づくり教室の充実	その他	特にな	無回答
全体	41 7.3	41 7.3	33 5.9	31 5.5	28 5.0	17 3.0	27 4.8	50 8.9
20歳未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	3 6.1	7 14.3	7 14.3	3 6.1	0 0.0	1 2.0	3 6.1	1 2.0
30～39歳	14 10.6	12 9.1	6 4.5	7 5.3	7 5.3	4 3.0	5 3.8	5 3.8
40～49歳	9 6.7	7 5.2	10 7.5	4 3.0	4 3.0	7 5.2	7 6.7	9 6.7
50～59歳	6 5.0	4 3.3	7 5.8	10 8.3	7 5.8	3 2.5	4 3.3	16 13.2
60～69歳	6 6.7	6 6.7	2 2.2	4 4.4	6 6.7	1 1.1	6 6.7	11 12.2
70～79歳	2 11.8	0 0.0	1 5.9	1 5.9	2 11.8	0 0.0	1 5.9	5 29.4
80歳以上	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0

年齢別にみると、おおむね年齢が低くなるにしたがって「年金などの所得保障の充実」、「障害があっても働ける場の確保」が多くなっている。

【精神障害者保健福祉手帳の有無別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	実年金などの所得保障の充	障害があつても働ける場の確保	医療費の負担軽減	発の障害者に対する周囲の啓人	必要な福祉施設の整備	生活訓練等の場として	外出や施設の利用のための移動、送迎などのため	ホームヘルプサービスの充実	自宅での生活を支えるサービス	スポーツ・文化・レクリエーション活動に対する施策の充実	相談支援体制の充実	障害に適した設備を持つ住宅の確保	グループホームなど住ま	はじめ趣味娯楽など各種情報提供の充実	福祉に関するお知らせを	ちづくりの推進	建物や交通機関、道路などの障害者に配慮したま
全体	564 100.0	281 49.8	216 38.3	144 25.5	136 24.1	103 18.3	84 14.9	84 14.9	77 13.7	72 12.8	63 11.2	63 11.2	51 9.0	49 8.7	49 8.7	48 8.5	48 8.5
1級を持っている	70 100.0	34 48.6	21 30.0	16 22.9	15 21.4	16 22.9	19 27.1	10 14.3	12 17.1	7 10.0	9 12.9	9 12.9	9 12.9	4 5.7	4 5.7	5 7.1	5 7.1
2級を持っている	380 100.0	190 50.0	146 38.4	98 25.8	87 22.9	68 17.9	54 14.2	58 15.3	44 11.6	44 11.6	39 10.3	39 10.3	34 8.9	34 8.9	34 8.9	32 8.4	32 8.4
3級を持っている	103 100.0	53 51.5	44 42.7	28 27.2	30 29.1	17 16.5	9 8.7	13 12.6	18 17.5	20 19.4	12 11.7	12 11.7	6 5.8	11 10.7	11 10.7	9 8.7	9 8.7
手帳制度を知らなかった	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	0 100.0	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
制度は知っていたが持っていない	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
これから申請したい(申請中である)	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
わからない	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	2 50.0
その他	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	家族の充実	救急医療の整備	専門的な機能回復訓練の実施	災害時・緊急時の情報提供、通信体制、避難誘導	健康づくり教室の充実	その他	特にな	無回答
全体	41 7.3	41 7.3	33 5.9	31 5.5	28 5.0	17 3.0	27 4.8	50 8.9
1級を持っている	5 7.1	3 4.3	2 2.9	3 4.3	2 2.9	1 1.4	5 7.1	7 10.0
2級を持っている	30 7.9	28 7.4	23 6.1	25 6.6	18 4.7	11 2.9	18 4.7	32 8.4
3級を持っている	6 5.8	9 8.7	5 4.9	3 2.9	7 6.8	5 4.9	4 3.9	10 9.7
手帳制度を知らなかった	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
制度は知っていたが持っていない	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
これから申請したい(申請中である)	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
わからない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0
その他	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

精神障害者保健福祉手帳の有無別にみると、1級所持者の「外出や施設の利用のための移動、送迎などの外出支援」が27.1%と他の等級所持者比べて多くなっている。

【同居人数別】

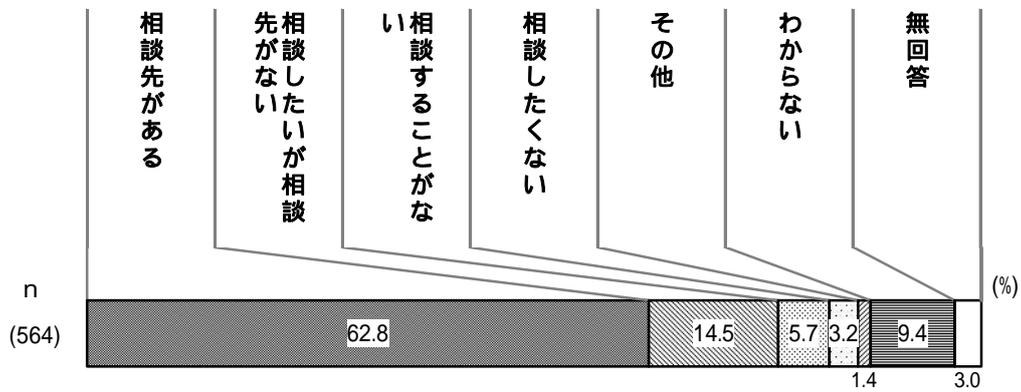
上段：件数 下段：%	調査数（n）	実年金などの所得保障の充	の障害があっても働ける場	医療費の負担軽減	発の理解を深めるための周囲の啓人	必要な福祉施設の整備	支の外出や施設の利用のため	のサームヘルプサービスの充	自住宅での生活を支えるな	施策の充	相談支援体制の充	障害に適した設備を持つ	いグループホームなど住ま	情報は趣味など各種	福祉に関するお知らせを	ちづくりの推進	建物や交通機関、道路な
全体	564 100.0	281 49.8	216 38.3	144 25.5	136 24.1	103 18.3	84 14.9	84 14.9	77 13.7	72 12.8	63 11.2	51 9.0	49 8.7	48 8.5	48 8.5	48 8.5	48 8.5
0人（同居者なし）	84 100.0	36 42.9	38 45.2	13 15.5	29 34.5	14 16.7	14 16.7	15 17.9	15 17.9	12 14.3	12 15.5	13 15.5	8 9.5	12 14.3	12 14.3	8 9.5	8 9.5
1人	117 100.0	63 53.8	52 44.4	31 26.5	31 26.5	21 17.9	14 12.0	19 16.2	12 10.3	18 15.4	11 9.4	5 4.3	9 7.7	9 7.7	9 7.7	9 7.7	9 7.7
2人	139 100.0	79 56.8	51 36.7	51 36.7	33 23.7	25 18.0	17 12.2	22 15.8	17 12.2	15 10.8	18 12.9	17 12.2	17 12.2	9 6.5	9 6.5	9 6.5	9 6.5
3人以上	122 100.0	60 49.2	47 38.5	34 27.9	23 18.9	25 20.5	22 18.0	9 7.4	16 13.1	17 13.9	7 5.7	11 9.0	12 9.8	12 9.8	8 6.6	8 6.6	8 6.6

上段：件数 下段：%	家族が休養できるような	救急医療の整備	実専門的な機能回復訓練の	対策の充	災害時・緊急時の避難誘導	健康づくり教室の充	その他	特にな	無回
全体	41 7.3	41 7.3	33 5.9	31 5.5	28 5.0	17 3.0	27 4.8	50 8.9	
0人（同居者なし）	3 3.6	5 6.0	3 3.6	6 7.1	5 6.0	1 1.2	3 3.6	6 7.1	
1人	8 6.8	6 5.1	4 3.4	5 4.3	7 6.0	6 5.1	3 2.6	9 7.7	
2人	17 12.2	11 7.9	14 10.1	10 7.2	7 5.0	4 2.9	7 5.0	6 4.3	
3人以上	10 8.2	11 9.0	11 9.0	5 4.1	4 3.3	4 3.3	8 6.6	12 9.8	

同居人数別にみると、0人（同居者なし）で「障害者に対する周囲の人の理解を深めるための啓発」が34.5%他の同居人数に比べて多くなっている。

8 相談機能について

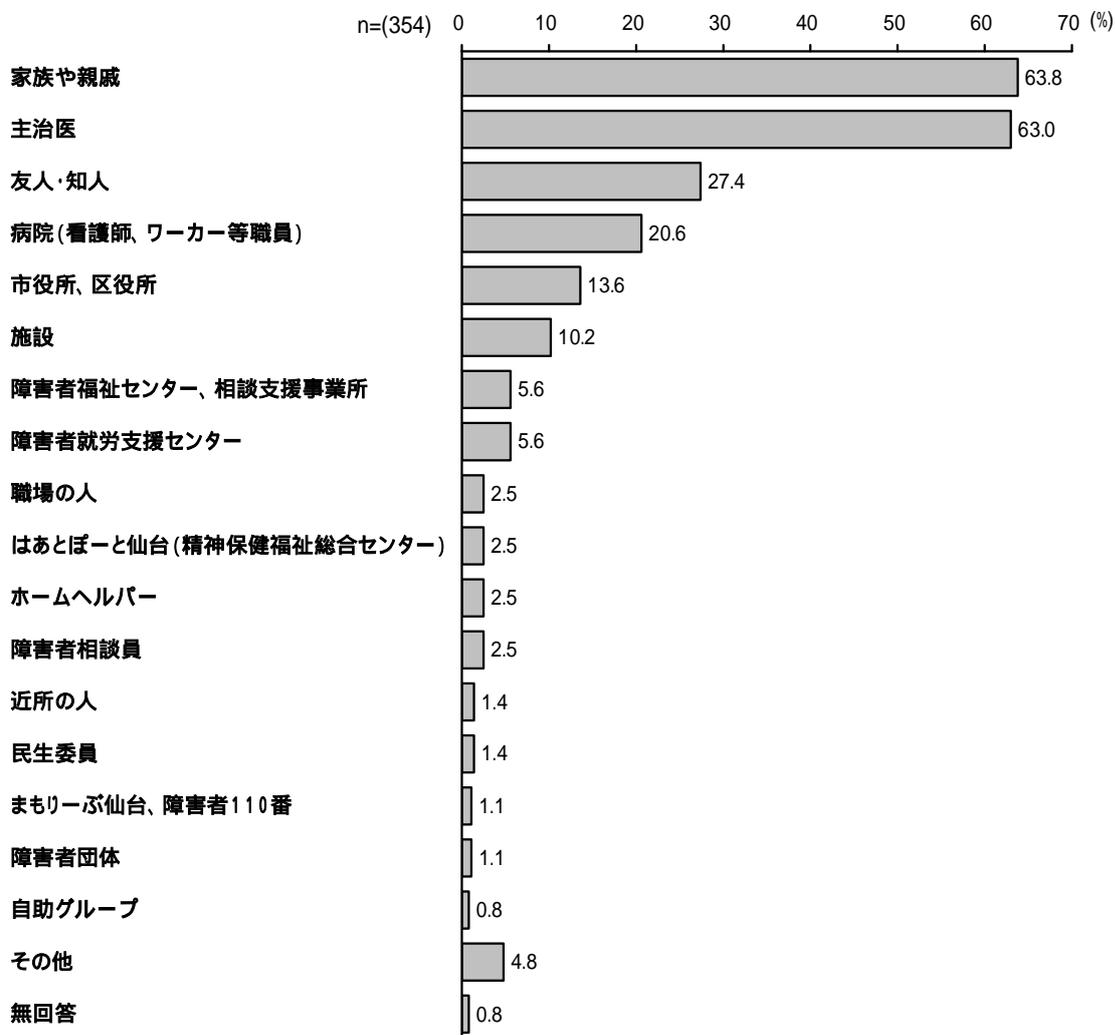
問 35 困ったときの相談について次のうちあてはまるのは何ですか。(S A)



困ったときの相談先の有無については、「相談先がある」(62.8%)が最も多く、以下「相談したいが相談先がない」(14.5%)となっている。

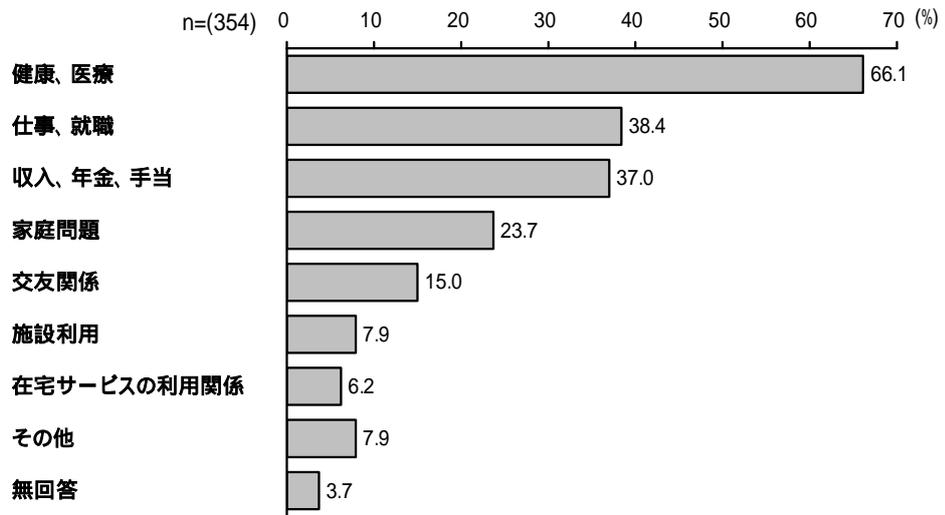
問 36 35 において「1 相談先がある」を選択した方におたずねします。

(1) 主な相談相手はどなたですか。(M A)



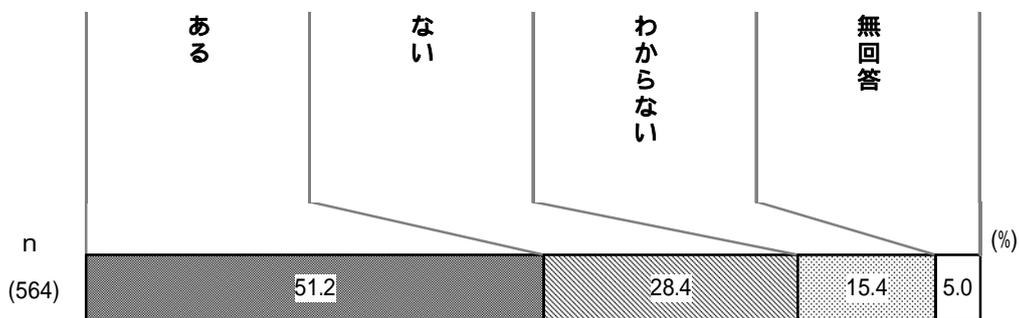
困ったときの相談相手については、「家族や親戚」(63.8%)、「主治医」(63.0%)がともに多く、以下「友人・知人」(27.4%)、「病院(看護師、ワーカー等職員)」(20.6%)となっている。

(2) 相談していること(したいこと)は何ですか。(MA)



困ったときの相談相手に相談していることについては、「健康、医療」(66.1%)が最も多く、以下「仕事、就職」(38.4%)、「収入、年金、手当」(37.0%)となっている。

問 37 あなたはこれまでに障害を理由に差別を受けたり、いやな思いなどしたことがありますか。(SA)



障害を理由に差別を受けたり、いやな思いをしたことについては、いやな思いをしたことがある人は51.2%、いやな思いをしたことがない人は28.4%となっている。

【年齢別】

	調査数 (n)	ある	ない	わからない	無回答
上段：件数 下段：%					
全体	564 100.0	289 51.2	160 28.4	87 15.4	28 5.0
20歳未満	5 100.0	4 80.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	49 100.0	30 61.2	14 28.6	2 4.1	3 6.1
30～39歳	132 100.0	77 58.3	25 18.9	23 17.4	7 5.3
40～49歳	134 100.0	74 55.2	27 20.1	25 18.7	8 6.0
50～59歳	121 100.0	54 44.6	43 35.5	21 17.4	3 2.5
60～69歳	90 100.0	35 38.9	39 43.3	12 13.3	4 4.4
70～79歳	17 100.0	7 41.2	7 41.2	1 5.9	2 11.8
80歳以上	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0

年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがっていやな思いをしたことがあるとの回答が多くなっている。

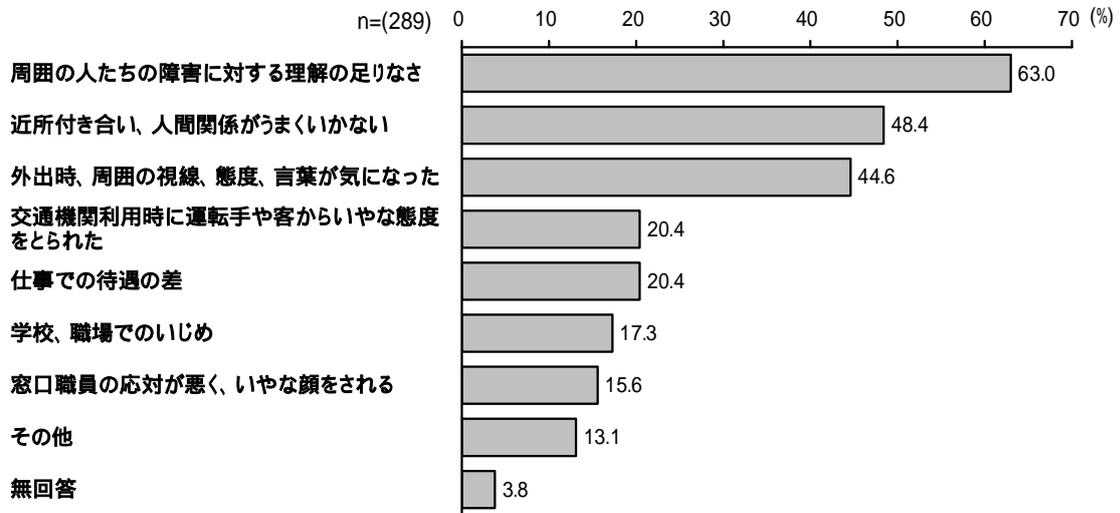
【精神障害者保健福祉手帳の有無別】

	調査数 (n)	ある	ない	わからない	無回答
上段：件数 下段：%					
全体	564 100.0	289 51.2	160 28.4	87 15.4	28 5.0
1級を持っている	70 100.0	26 37.1	20 28.6	20 28.6	4 5.7
2級を持っている	380 100.0	196 51.6	107 28.2	57 15.0	20 5.3
3級を持っている	103 100.0	62 60.2	29 28.2	8 7.8	4 3.9
手帳制度を知らなかった	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
制度は知っていたが持っていない	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
これから申請したい (申請中である)	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
わからない	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0
その他	3 100.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0

精神障害者保健福祉手帳の有無別にみると、等級が軽くなるにしたがっていやな思いをしたことがあるとの回答が多くなっている。

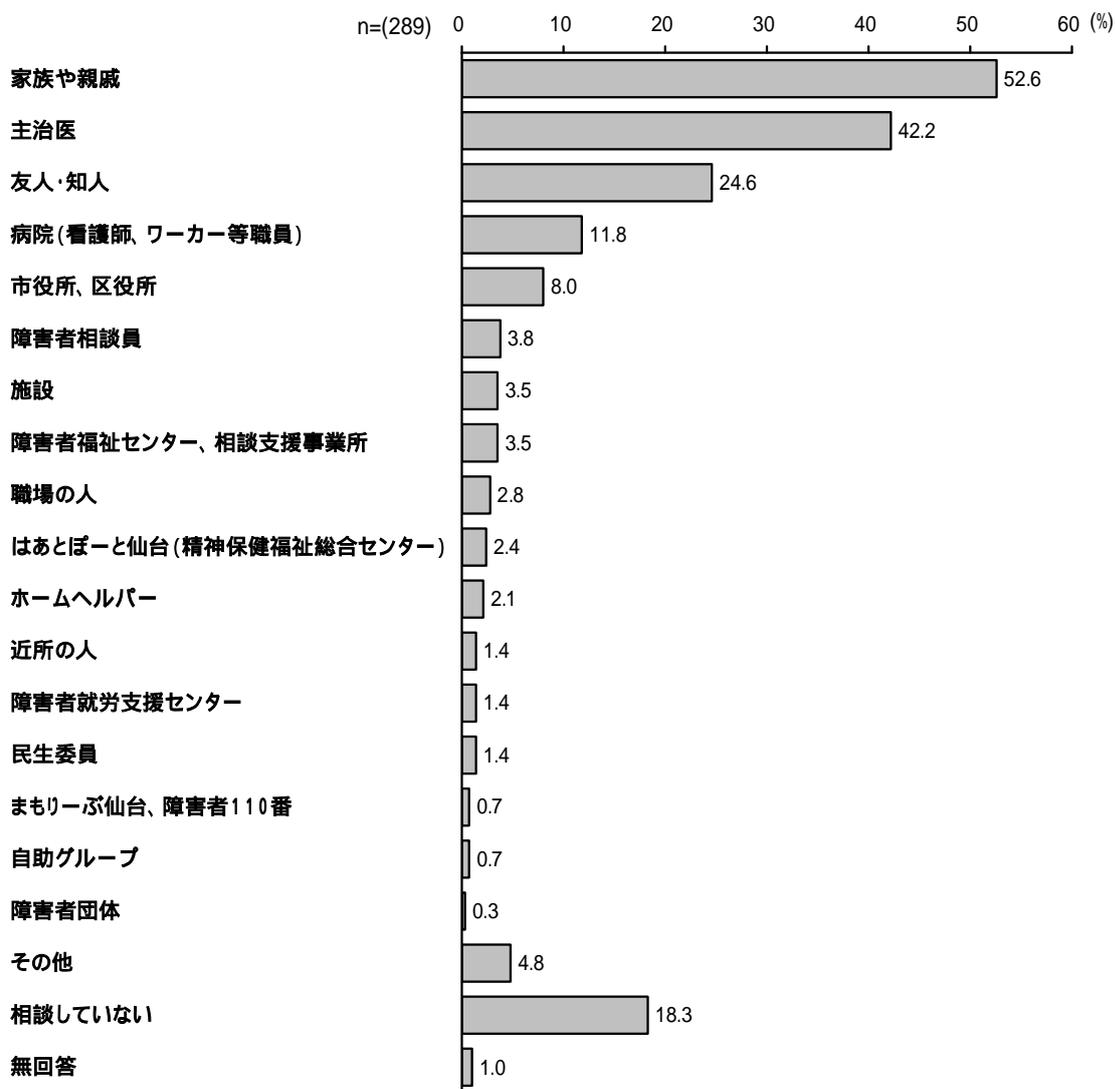
問 38 37 において「1 ある」を選択した方におたずねします。

(1) あなたは、どのような内容の差別を受けたり、いやな思いをされましたか。(M A)



受けた差別やいやな思いの内容については、「周囲の人たちの障害に対する理解の足りなさ」(63.0%)が最も多く、以下「近所付き合い、人間関係がうまくいかない」(48.4%)、「外出時、周囲の視線、態度、言葉が気になった」(44.6%)となっている。

(2) 差別やいやな思いを受けたときに誰かに相談しましたか。(MA)



差別を受けたり、いやな思いをしたときの相談先については、「家族や親戚」(52.6%)が最も多く、以下「主治医」(42.2%)、「友人・知人」(24.6%)となっている。

なお、「相談していない」が18.3%となっている。

(3)(2)において「19 相談していない」を選択した方におたずねします。

相談しない理由は何ですか。(S A)

(上段：件数、下段：%)

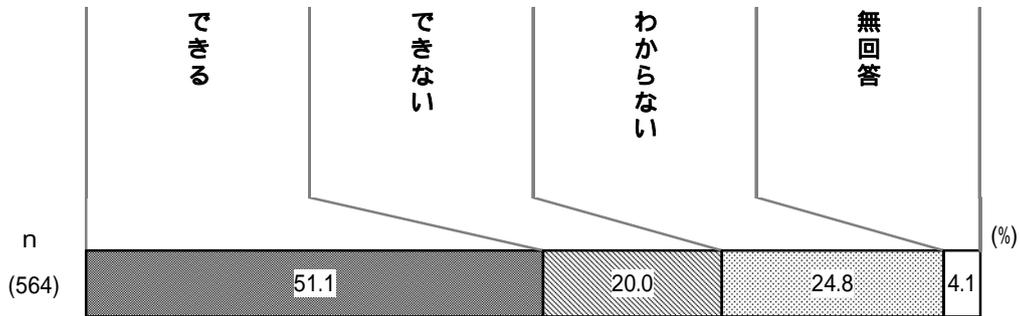
調査数 (n)	い相談したいが相談先がない	相談したくない	その他	わからない	無回答
53 100.0	14 26.4	13 24.5	14 26.4	9 17.0	3 5.7

差別やいやな思いを相談しない理由については、「相談したいが相談先がない」が 14 件、「相談したくない」が 13 件となっている。

なお、「その他」(14 件)の内容については、「相談しても解決しない」との回答が多くなっている。

9 災害対策について

問 39 あなたは地震などの発生時、一人で避難することができますか。(S A)



地震などの災害発生時、一人で避難することの可否については、一人で避難できる人は 51.1%、一人で避難できない人は 20.0%となっている。

なお、一人で避難できるかどうかわからない人は 24.8%となっている。

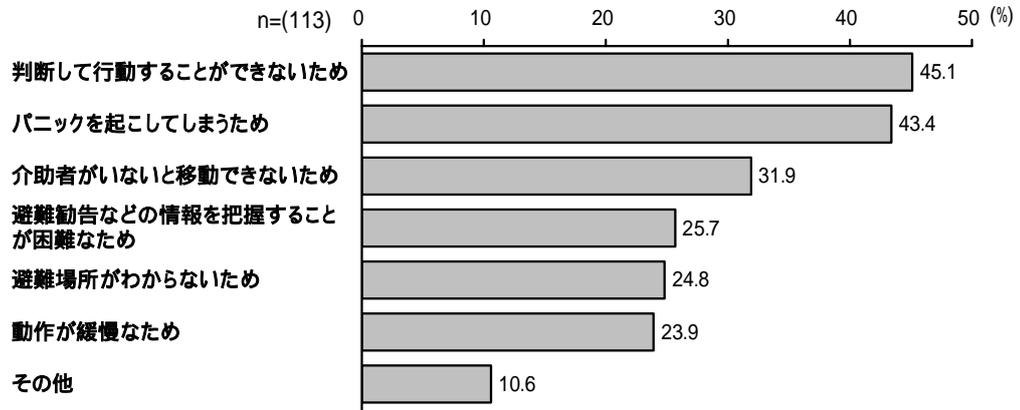
【年齢別】

	調査数 (n)	できる	できない	わからない	無回答
上段：件数 下段：%					
全体	564 100.0	288 51.1	113 20.0	140 24.8	23 4.1
20歳未満	5 100.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
20～29歳	49 100.0	26 53.1	6 12.2	14 28.6	3 6.1
30～39歳	132 100.0	68 51.5	28 21.2	31 23.5	5 3.8
40～49歳	134 100.0	71 53.0	16 11.9	37 27.6	10 7.5
50～59歳	121 100.0	61 50.4	31 25.6	27 22.3	2 1.7
60～69歳	90 100.0	48 53.3	20 22.2	20 22.2	2 2.2
70～79歳	17 100.0	6 35.3	5 29.4	5 29.4	1 5.9
80歳以上	4 100.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0

年齢別にみると、「できない」は 20～29 歳で 12.2%、40～49 歳で 11.9%と、他の年齢で 20%以上であるのに比べて少なくなっている。

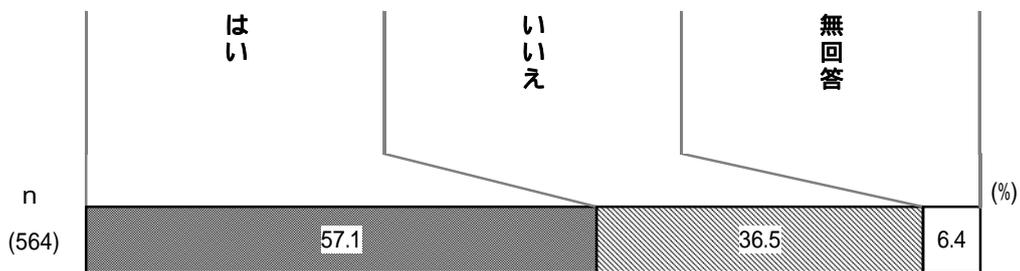
問 40 39 において「2 できない」を選択した方におたずねします。

災害のとき一人で避難することができない理由は何ですか。(M A)



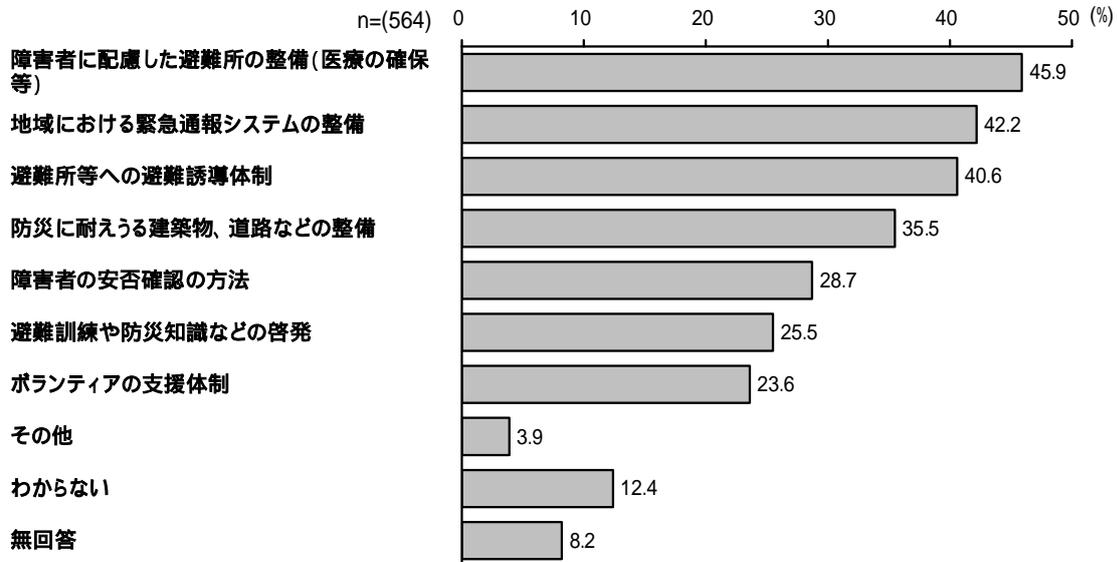
災害のとき一人で避難できない理由については、「判断して行動することができないため」(45.1%)、「パニックを起こしてしまうため」(43.4%) がともに多く、以下「介助者がいないと移動できないため」(31.9%) となっている。

問 41 あなたのお住まいの地区の避難所の場所を知っていますか。(S A)



住んでいる地区の避難所の場所の認知については、知っている人が 57.1%、知らない人が 36.5% となっている。

問 42 地震、台風などの災害に対して、もっとも大切と思う対策はどんなことだと思いますか。(MA)



地震、台風などの災害に対して最も大切と思う対策については、「障害者に配慮した避難所の整備(医療の確保等)」(45.9%)が最も多く、以下「地域における緊急通報システムの整備」(42.2%)、「避難所等への避難誘導體制」(40.6%)、「防災に耐えうる建築物、道路などの整備」(35.5%)、「障害者の安否確認の方法」(28.7%)、「避難訓練や防災知識などの啓発」(25.5%)、「ボランティアの支援体制」(23.6%)となっている。

【年齢別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	の障害者に配慮した避難所の整備 (医療の確保等)	地域における緊急通報システム	避難所等への避難誘導体制	防災に耐えうる建築物、道路などの整備	障害者の安否確認の方法	避難訓練や防災知識などの啓発	ボランティアの支援体制	その他	わからない	無回答	
全体	564 100.0	259 45.9	238 42.2	229 40.6	200 35.5	162 28.7	144 25.5	133 23.6	22 3.9	70 12.4	46 8.2
20歳未満	5 100.0	3 60.0	3 60.0	4 80.0	2 40.0	4 80.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	49 100.0	18 36.7	19 38.8	19 38.8	21 42.9	12 24.5	13 26.5	11 22.4	1 2.0	10 20.4	2 4.1
30～39歳	132 100.0	70 53.0	56 42.4	64 48.5	61 46.2	47 35.6	45 34.1	33 25.0	6 4.5	13 9.8	4 3.0
40～49歳	134 100.0	67 50.0	59 44.0	48 35.8	46 34.3	39 29.1	29 21.6	40 29.9	10 7.5	12 9.0	15 11.2
50～59歳	121 100.0	52 43.0	54 44.6	49 40.5	37 30.6	27 22.3	26 21.5	24 19.8	2 1.7	17 14.0	10 8.3
60～69歳	90 100.0	33 36.7	39 43.3	33 36.7	31 34.4	27 30.0	23 25.6	19 21.1	3 3.3	11 12.2	10 11.1
70～79歳	17 100.0	8 47.1	2 11.8	4 23.5	1 5.9	3 17.6	2 11.8	0 0.0	0 0.0	4 23.5	3 17.6
80歳以上	4 100.0	4 100.0	1 25.0	4 100.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

年齢別にみると、「防災に耐えうる建築物、道路などの整備」は39歳以下の年代で多くなっている。

【精神障害者保健福祉手帳の有無別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	の障害者に配慮した避難所の整備 (医療の確保等)	地域における緊急通報システム	避難所等への避難誘導体制	防災に耐えうる建築物、道路などの整備	障害者の安否確認の方法	避難訓練や防災知識などの啓発	ボランティアの支援体制	その他	わからない	無回答	
全体	564 100.0	259 45.9	238 42.2	229 40.6	200 35.5	162 28.7	144 25.5	133 23.6	22 3.9	70 12.4	46 8.2
1級を持っている	70 100.0	31 44.3	30 42.9	26 37.1	18 25.7	16 22.9	16 22.9	17 24.3	3 4.3	11 15.7	6 8.6
2級を持っている	380 100.0	172 45.3	152 40.0	150 39.5	139 36.6	102 26.8	95 25.0	79 20.8	11 2.9	47 12.4	34 8.9
3級を持っている	103 100.0	50 48.5	49 47.6	48 46.6	37 35.9	38 36.9	29 28.2	33 32.0	8 7.8	11 10.7	6 5.8
手帳制度を知らなかった	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
制度は知っていたが持っていない	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
これから申請したい (申請中である)	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
わからない	4 100.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
その他	3 100.0	2 66.7	3 100.0	2 66.7	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

精神障害者保健福祉手帳の有無別にみると、等級が軽くなるにしたがって「障害者に配慮した避難所の整備 (医療の確保等)」、「避難所等への避難誘導体制」、「障害者の安否確認の方法」、「避難訓練や防災知識などの啓発」が多くなっている。

【同居人数別】

	調査数 (n)	の障害者に配慮した避難所の整備 (医療の確保等)	地域における緊急通報システムの整備	避難所等への避難誘導体制	防災に耐えうる建築物の整備	障害者の安否確認の方法	避難訓練や防災知識などの啓発	ボランティアの支援体制	その他	わからない	無回答
上段：件数 下段：%											
全体	564 100.0	259 45.9	238 42.2	229 40.6	200 35.5	162 28.7	144 25.5	133 23.6	22 3.9	70 12.4	46 8.2
0人(同居者なし)	84 100.0	44 52.4	34 40.5	36 42.9	33 39.3	33 39.3	20 23.8	17 20.2	7 8.3	11 13.1	4 4.8
1人	117 100.0	57 48.7	49 41.9	53 45.3	41 35.0	23 19.7	33 28.2	30 25.6	4 3.4	11 9.4	9 7.7
2人	139 100.0	68 48.9	66 47.5	55 39.6	60 43.2	43 30.9	40 28.8	32 23.0	4 2.9	20 14.4	11 7.9
3人以上	122 100.0	58 47.5	50 41.0	47 38.5	37 30.3	33 27.0	32 26.2	35 28.7	4 3.3	13 10.7	10 8.2

同居人数別にみると、0人(同居者なし)では「地域における緊急通報システムの整備」が39.3%、2人では「障害者の安否確認の方法」が47.5%と他の同居人数に比べて多くなっている。

10 精神障害者本人（通院）の自由回答

アンケートに、自由に発言していただける欄を設けたところ、意見数は156件であった。以下に主な意見を抜粋し、まとめた。

障がい者がいざ社会復帰できる状態になっても求人が少なく、なかなか社会復帰がままならないのが現状だと思っています。どうかしてください。

親が働けなくなった時に生活できないので、将来に対してとても不安です。お金の問題以外にも家事や症状など、心配なことがいっぱいです。

地下鉄、バスだけではなく、JRなどの運賃の割引があるといい。ヘルパーのリーダーさんなど、精神障がい者に対する、知識習得や、理解、対応などを知ってほしいし、できる人がなってほしい。

障がい者手帳2級は受けていますが、年金がもらえないので、ほかの病気の場合、病院代が大変です。自分で考えて行動ができないので、家族が大変です。多少でもいいですから、だれでも年金が受けられるようにしてほしい。現在は私たちが面倒を見てますが、将来が不安です。

就職の際、パソコンの基礎（ワード、エクセル）ができるのが条件となっている求人が多いが、もう少し精神的負担の少ない仕事を企業にも考えてもらいたい。勤務時間がなくていいような企業の求人がほしい（障害年金とプラスして生活できるように）。あらゆる分野で、障がい者の割引ができるようになったら嬉しい（衣類、めがね、携帯電話、光熱費（電気、ガス、水道、家賃などの生活に必要なもの））。

長い年月精神疾患です（17年くらい）。現在は、月1回の通院でカウンセリングを受け、薬を服用して、だいぶ落ち着いた生活を送れています。しかし、やはり再発についての怯えは常にあります。また、これまで、収入が不安定で、家族には迷惑をかけたし、老後にも不安があります。働けるときは働き、税金や年金、保険料も収めてはきましたが、健常者にはおよびません。それでも、いずれ老いて、社会保障の世話になって暮らす時がきます。その時、夫婦2人、何とか暮らしていけるものか…。これが最終的にもっとも心配なことです。この心配に対する公的支援は既にあるのかも知れませんが、自分はいくもわかりません。あったら教えてほしいです。

発達障がいの2次障がいとして、精神科通院を余儀なくされているので、学習や、就労などがしやすいよう法令上の整備をお願いしたい（現行法は発達障がい児への対策が主で、成人の発達障がい者への対策が十分といえない）。

通所授産施設に通所していますが、工賃が低い(1日1,000円くらい)なので、生活のたしにもならず、年金だけでは大変です。1,000円のうち、300円が昼食代になります。1ヶ月22日働いても15,400円にしかありません。福祉のほうでなんとかしてください。

元健常者の1人として、なぜ、精神疾患をもったからといって、健常者の心中から交友対象としてみなされなくなってくるのか。健常者の意識外に当事者がいることになっているのか。健常者の眼中に入るため、私が抱えるハードルはこんなに高く、多いのか。そして、そもそもなぜ、コミュニティが別々にあり、隔離しているのか?家族、職場、病院、施設以外で、他の場所で、私的な時間で、精障の当事者と健常者の交友はこんなにも少ない。それがあまりにも寂しくてなりません。この心情を万が一にも理解していただけるのであれば、前述のアンケートでは見て取れない部分にも手が届くのではないかと。そんな期待をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

経済的な不安が大きいので、市民税や国保、年金などの減免、免除などの手続きをわかりやすく、簡単にしてほしい。また、生活保護を受給したいと思っているが、よく難しいといわれるので、障がいのことを理解し、働きたくても働けないということを知ってほしい。役所の窓口が非常に不親切で、嫌な思いをすることが多いので、全面的に協力してほしい。うつですごく悩んで、常に経済的な問題で悩んで死にたいと考えているので、本当に助けてほしい。

デイケアなどは、利用者は若い人が多いため、利用しづらかった。年齢が高くても、利用しやすいところがあるといい。

精神的な障がいはまだまだ差別的な目で見られているのが現実です。この問題が「解決」することは完全には無理だとも思います。自身が「そう思っているだけ」かもしれませんが、当人としては他人の目はすごく気になります。役所などにおける相談先も設問に設けていただきたいと思います。できれば人目につきにくいところや個室での相談など、対応の仕方の充実を望んでいます。

一番身近な家族は病気のことを知らなさ過ぎる。相談にのってくれるのは、通所施設の人(教育を受けている)やお医者さんです。精神科の病気で大切な事。服薬、睡眠、のんびりすること、教育(精神科の病気の)。

東京では自立支援医療の自己負担額(うちの場合は月2,500円)を助成してくれるのに、仙台にはないのが嫌です。精神障がい者手帳のサービスが少ない。特に交通機関。JRにないのが嫌。

生活保護を受けていますが、授産所で得る工賃が8,000円以上の月は保護費を引かれてしまいます。工賃をもっと増やしたいという労働意欲があっても、保護費が減らされるとがっかりしてしまいます。授産所で得る工賃で月額8,000円以上働いても、保護費を減らさないようにしてほしい。

精神障がい、目に見えない障がいであるので、周囲の理解が得られなく辛い思いで、毎日を過しています。どこかや、誰かに吐き出したいけど「元気なのに」「頑張ってる」などと言われ、理解してもらえないの事がほとんどです。吐き出す場所の情報の提供を充実してください。

障がい者の工賃が安すぎます。1時間250円くらいは支給してほしいです。

町内会などで、災害時の援助の名簿作成の回覧がありましたが、具体的に病状などを知られたくないため、家族に援助の必要なものはないと解答しました。本当は援助が必要なのに、近所に知られたくないため。そのように記入しました。苦しい選択でした。

仙台市の窓口、障がいも生活保護もこちらの身になって働いていない。相談もしたくない。病気のことをどれだけ理解しているのか？口だけ。具合が悪いのに「訪問することになっているから行く」と電話が来た。手紙にしてくれと言うと、「電話のほうが早いんだ」と人と会うのがダメな病気です。年金も払えと急に年金基金から手紙、年収提出（ゼロですが）すると生活保護はまた違う届出がいるという。発作おこしながら手続きに行きました。これは区役所が、生活保護の人に対してきちんと通告していないからと年金基金は言っていました。また、職員の家庭訪問は、男性が1人でくるのはやめてほしい。怖い。常識的に2名とか、女性をいれてください。障がい者のためのプールと老人向けのプールを一緒にしないで。いじめをうけていけなくなりました。シルバーセンターの職員もよくないですね。評判最悪です。

障がい者施設が充実していて、だれしものが、安易な快樂に向かっているようですが、本当に治すなら、もっと厳しく治療に向かってほしい。障がいを被っている人たちも安易な生活をしているようです。回りの雰囲気も楽しいものばかりが多いようです。前向きで本気で直す気がれば、自立更正に力を入れるべきです。「リハビリ」という方法は再生を願って忽然と立ち上がる場所にあるということ、病身に「かつ」を入れて、上昇解決してほしいと思う。国は大いに「リハビリ」を導入して、一刻も早く治る方法を取ってほしいと思う。病気もちなので、やる気がないのも分かりますが、安易のままでは安易に終わるのであって、力強く飛躍が必要です。さらには、病気の「リハビリ」から、人生の「リハビリ」に転換できたらいいことだと思う。